

田原本町文化財 調査年報 ○15

2005年度



田原本町教育委員会

田原本町文化財 調査年報 ○ 15

2005年度



田原本町教育委員会

例　言

1. 本書は、田原本町教育委員会が2005年度（平成17年度）に実施した文化財事業の概要をまとめたものである。
2. 本書は、I. 田原本町の埋蔵文化財、II. 資料の整理と活用・普及、III. 唐古・鍵考古学ミュージアム、の3部構成である。いずれも文化財保存課職員が担当実施したものである。
3. 発掘調査では、土地所有者、施工業者ならびに近隣の皆様にご協力とご理解を賜った。また、唐古・鍵考古学ミュージアムの運営ならびに本書の作成に当たっては、ボランティア団体「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」の会長浦田廣志氏を始めとする会員にご協力を賜わった。記して感謝いたします。
4. 本書の執筆は、I. 1. を奥谷知日朗、I. 2. を清水琢哉・豆谷和之・奥谷、II・IIIを河森一浩・藤田三郎が執筆し編集した。

目 次

I. 田原本町の埋蔵文化財

1. 町内における開発と遺跡の異動	
(1) 町内における開発と発掘調査	1
(2) 遺跡の異動	2
2. 埋蔵文化財の調査	
(1) 発掘調査の概要	3
1. 唐古・鍵遺跡 第101次調査	5
2. 唐古・鍵遺跡 第102次調査	6
Column 1 土坑から出土した斧柄未成品	7
3. 法賀寺北遺跡 第3次調査	8
4. 矢部遺跡 第3次調査	9
5. 笹鉢山古墳群 第6次調査	10
Column 2 墳丘北側の外濠	11
6. 羽子田遺跡 第29次調査	12
Column 3 羽子田古墳群の成立と展開	13
7. 下ツ道 第2次調査	14
8. 阪手北遺跡 第5次調査	15
9. 十六面・薬王寺遺跡 第23次調査	16
10. 西竹田遺跡 第1次調査	17
11. 常楽寺推定地 第5次調査	18
Column 4 弥生時代中期の短期小集落資料	19
Column 5 古墳時代前期の宮古周辺	20
Column 6 常楽寺の範囲を推定する	21
12. 千代遺跡 第6次調査	22
13. 法賀寺遺跡 第5次調査	23
14. 平野氏陣屋跡 第13次調査	24
(2) 試掘調査・工事立会・遺跡有無踏査の概要	25
桑工寺南遺跡 試掘調査	26
唐古・鍵遺跡 工事立会	28
Column 7 ムラを囲む西側の環濠	29

十六面・薬王寺遺跡 工事立会	30
3. 田原本町考古・鍵遺跡調査検討委員会	
(1) 委員会の目的	31
(2) 調査検討委員会 2005年度委員	31
(3) 2005年度 調査検討委員会実施内容	31
II. 資料の整理と活用・普及	
1. 埋蔵文化財の整理・保管	35
2. 資料の保存と管理	
(1) 本製品の保存処理	38
(2) 資料の寄贈	38
(3) 発掘調査・出土遺物の写真撮影とデジタル化	39
(4) 資料の製作	39
3. 遺跡の整備	
(1) 史跡の公有化	40
(2) 復元楼閣の修理	41
4. 研究活動	42
5. 講座	
(1) 考古学実践講座	42
(2) チャレンジ子ども弥生探検隊	44
(3) 弥生時代の生活体験イベント	45
(4) 復元楼閣の一般公開	45
6. 資料の活用	
(1) 資料の貸出	46
(2) 資料の継続貸出	46
(3) 資料の掲載	47
7. 図書の受領	48
8. 刊行物一覧	49
9. 職場体験学習	50
10. ボランティア組織	
(1) 設立の趣旨	50
(2) 活動の方針	50
(3) 平成17年度の活動内容	51

III. 唐古・鍵考古学ミュージアム

1. 施設の概要	
(1) 田原本青垣生誕学習センターの概要	57
(2) 唐古・鍵考古学ミュージアムの概要	57
2. 開館にいたる経緯と名称	
(1) 開館に至る経緯と経過	59
(2) ミュージアムの名称	59
(3) 展示の方針	59
3. 利用案内	60
4. 常設展示	
(1) 展示室の概要	61
(2) 唐古・鍵の弥生世界	62
(3) 田原本のあゆみ	64
(4) ロビー展示	64
5. 企画展・ミニ展示	
(1) 春季企画展「たわらもと2005 発掘速報展」	65
(2) 秋季企画展「唐古・鍵遺跡と周辺の弥生遺跡」	68
(3) 夏季ミニ展示	71
(4) 冬季ミニ展示	72
(5) 写真展	72
6. 入館者	
(1) 入館者数	73
(2) 観察・研修での利用	75
(3) 学校での利用	75
(4) 国内・海外研究者の来館	75
(5) 資料調査	76
(6) 入館者アンケート	76
7. ホームページ	76
8. 展示ボランティア・ガイド	
(1) ガイド実績	77
(2) ボランティア・ガイドの運営と研修会	78
(3) 田原本町内遺跡巡り	78
(附編) 条例	79



I. 田原本町の埋蔵文化財

I - 1. 町内における開発と遺跡の異動

(1) 町内における開発と発掘調査

本町における2005年度（平成17年度）の民間開発行為等による埋蔵文化財発掘届（第93条）は44件、地方公共団体等による通知（第94条）は9件で、計53件を数える。ここ3年の発掘届は40件台で、発掘通知件数を合わせると50～60件となり、ほぼ横這い状況である。

今年度の発掘調査は17件である。このうち田原本町教育委員会が実施した発掘調査は16件で、その内訳は公共事業に伴うもの5件、民間開発に伴うもの3件（うち重要遺跡認定に基づく範囲確認1件）、個人住宅の建築に伴うもの7件、範囲確認が1件である。範囲確認調査は、唐古・鍵遺跡と笠鉢山1号墳でそれぞれ実施した。

第1表 田原本町における2005年度の発掘届および発掘通知一覧

単位=件

	発掘届 93条	発掘通知 94条		発掘調査	工事立会	慎重工事
2005年度 (平成17年度)	44 (うち変更届1)	9 (うち変更届1)	通知内容	17	18	18
			実施分	町16（うち試掘2）	27	

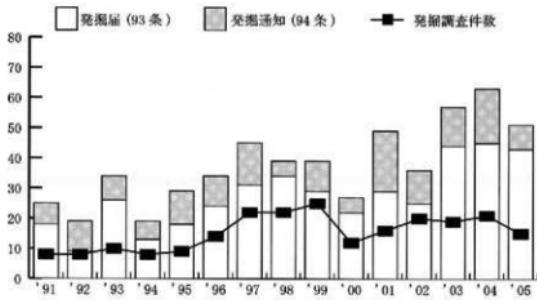
※発掘調査・工事立会の通知・実施件数の不一致は、18年度以降対応予定の為

第2表 田原本町における埋蔵文化財発掘届・通知と発掘調査の件数

単位=件

	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05
発掘届（93条）	18	9	26	13	18	24	31	34	29	22	29	25	44	45	43
発掘通知（94条）	7	10	8	6	11	10	14	5	10	5	20	11	13	18	8
計	25	19	34	19	29	34	45	39	39	27	49	36	57	63	51
調査件数	町	8	7	9	7	8	14	22	21	24	12	15	19	18	14
	県	2	1	1	3	1	0	2	0	2	1	1	1	3	0
町内総調査件数		10	8	10	10	9	14	24	21	26	13	16	20	19	21

※試掘調査件数を除く



第1図 発掘届・通知と発掘調査件数の推移

近年の発掘調査の要因は、個人住宅の建築に伴うものと公共事業に伴うものが大半を占める。個人住宅に伴う調査は面積が50m²以下で、日数も1～3日で終わるものである。また、公共事業のうち、下水道工事に伴う調査も同様の調査面積と日数である。

(2) 遺跡の異動

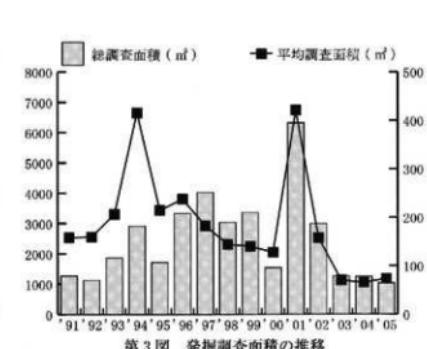
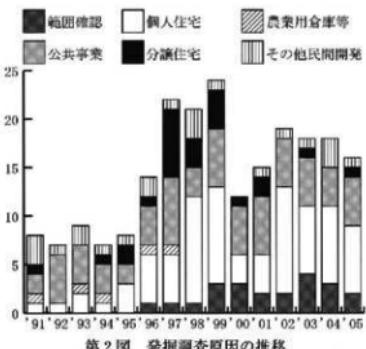
2005年度に実施した発掘調査や工事立会、踏査の成果から、矢部中曾司遺跡（新規確認）、常楽寺推定地（範囲の拡大）、宮古石橋遺跡（遺跡の新規確認）の各遺跡で異動があるが、書類手続上、2006年度となつたため、次年度の年報において報告することとする。

第3表 町教育委員会が実施した発掘調査の原因別の推移 単位=件

調査原因	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05
範囲確認	0	0	0	0	0	1	1	1	3	3	2	2	4	3	2
個人住宅	1	1	2	1	3	5	5	11	10	3	4	11	7	8	7
農業用倉庫等	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
公共事業	2	5	4	3	2	4	7	3	6	5	6	5	5	4	5
民間開発	分譲住宅	1	0	0	1	2	1	7	3	4	1	2	0	1	0
その他	3	1	2	1	1	2	1	3	1	0	1	1	1	3	1
計	8	7	9	7	8	14	22	21	24	12	15	19	18	18	16

第4表 町教育委員会による発掘調査の面積と出土遺物数の推移

	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05
総調査面積 (m ²)	1,266	1,118	2,015	2,910	2,015	3,328	4,040	3,034	3,356	1,535	6,314	3,008	1,263	1,235	1,030
1件あたりの調査面積(m ²)	158	159	206	415	214	237	182	144	139	127	420	157	70	69	74
出土遺物数 (箱)	626	529	537	124	1,567	1,234	552	1,337	730	799	354	785	532	314	104

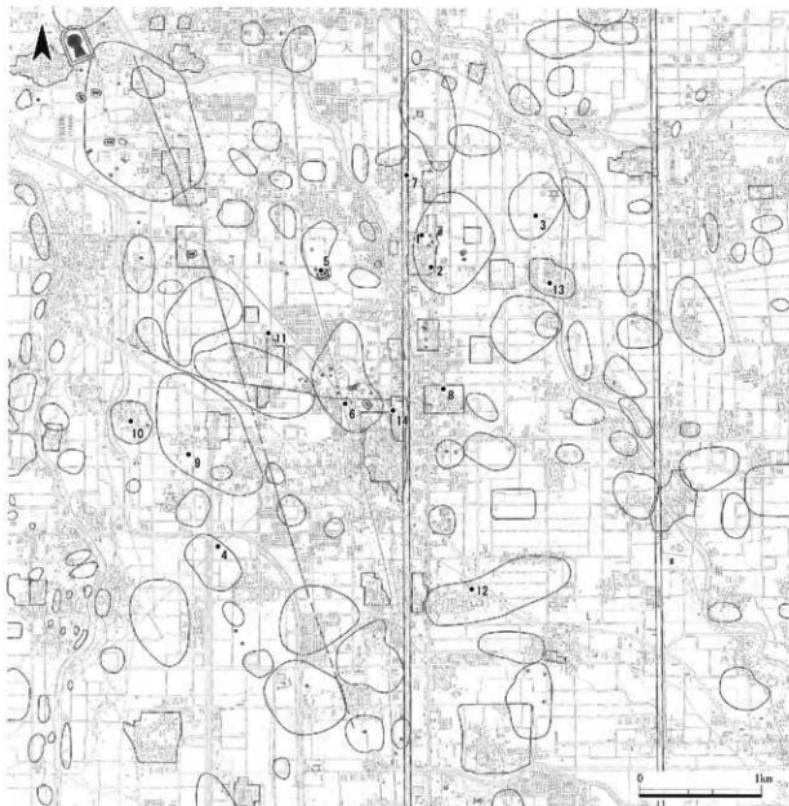


I - 2. 埋蔵文化財の調査

(1) 発掘調査の概要

本年度、本町で実施した発掘調査は16件である。このうち、本調査を実施した14件について、時代ごとに成果を概観する。

弥生時代～古墳時代　唐古・鍵遺跡では2件の調査を実施した。1件は緊急調査、1件は重要遺跡認定に基づく範囲確認調査である。遺跡西部（1）と南西部（2）で実施し、それぞれ弥生時代の環濠や溝、土坑群等を検出した。この結果、遺跡西部で確認した環濠から西側居住区の範囲がほぼ確定した。遺跡南西部の調査地は居住区内とみられるが不明な点が多い。



第4図 田原本町の遺跡と調査地点

唐古・鍵遺跡の南西約1.7kmにあたる常楽寺推定地の調査（11）では、弥生時代中期中頃と古墳時代初頭の2時期の遺構を検出した。保津・宮古遺跡も含め、唐古・鍵遺跡周辺に点在する小集落の様相を検討する一助となろう。また、唐古・鍵遺跡の西部にあたる法貴寺北遺跡の調査（3）では、弥生時代～古墳時代の大規模な河跡を検出している。

笛鉢山1号墳は、当町教育委員会が継続的に範囲確認調査を実施している前方後円墳である。今年度は、墳丘北側の様相の把握を目的とする調査を実施した。この結果、墳丘北側の周濠は南側に比べて幅が狭く、また大きく屈曲している状況が判明した。また、羽子田遺跡の調査では新たに古墳時代前期～後期の古墳数基を検出している。

古代・中世・近世 古代に所属する遺構・遺物はほとんど検出されていない。中世の調査では、十六面・薬王寺遺跡、西竹田遺跡、常楽寺推定地、千代遺跡、平野氏陣屋跡の各遺跡で遺構を検出している。常楽寺推定地の調査では中世居館に関連するとみられる土坑・溝を検出した。調査後に実施した踏査結果から、調査区北側において中世居館が存在することが明らかとなった。

第5表 2005年度 発掘調査一覧表

	遺跡名	調査次数	調査地	原因者	原因	調査期間	調査面積	時期	調査担当	備考
1	唐古・鍵	第101次	田原本町鍵312番 内輪道路	田原本町	下水道工事	2005.7.27～10.22	27m ²	弥生・中世 近世・現代	美谷知日郎	下水追跡
2	唐古・鍵	第102次	田原本町鍵271番5	鍵自治会長	集公所の建築	2006.1.16～2.6	45m ²	弥生・中世 近代・現代	奥谷	国庫補助事業 (重要遺跡認定)
3	法貴寺北	第3次	田原本町法貴寺1118番他	田原本町	農道改良工事	2005.11.16～12.19	166m ²	弥生・古墳 中世	清水隊	産業振興課
4	矢部	第3次	田原本町矢部30番1	関西電力 株式会社	送電鉄塔の建設	2005.8.22～8.23	56m ²	弥生～古墳？ 中世？	清水 奥谷	受託事業
5	笠井山 山墳群	第6次	田原本町八尾181番3、261番、262番	田原本町	範囲確認	2006.2.7～3.15	192m ²	古墳・古代 中世	清水	国庫補助事業
6	羽子田	第29次	田原本町396番1	個人	分譲住宅の建築	2005.5.12～6.8	305m ²	古墳・古代 中世	清水	受託事業
7	下ヶ道	第2次	田原本町西代223番1	個人	個人住宅の建築	2005.7.13	3m ²	中世？・現代	清水	国庫補助事業
8	阪手北	第5次	田原本町阪手198番2	個人	個人住宅の建築	2005.7.11	12m ²	中世？	清水	国庫補助事業
9	十六面・ 薬王寺	第23次	田原本町十六面278番3他	田原本町	下水道工事	2005.11.24～11.25	13m ²	中世・近世	豆谷和之	下水道課
10	西竹田	第1次	田原本町西竹田1番市輪道路他	田原本町	下水道工事	2005.7.28～8.6	10m ²	中世・近世	清水	下水道課
11	常楽寺 推定地	第5次	田原本町宮古293番4他	田原本町	道路拡幅工事	2005.11.21～12.19	143m ²	弥生・古墳 中世・近世	奥谷	建設課
12	千代	第6次	田原本町千代1162番	個人	個人住宅の建築	2005.8.29～9.1	10m ²	中世・近世 近代	清水 奥谷	国庫補助事業
13	法貴寺	第5次	田原本町法貴寺1662番1、2	個人	個人住宅の建築	2005.12.19～12.22	16m ²	近世・近代	清水	国庫補助事業
14	平野氏 陣屋跡	第13次	田原本町759番1、3	個人	個人住宅の建築	2005.9.26～9.30	32m ²	古代？・中世	清水	国庫補助事業

1. 唐古・鍵遺跡 第101次調査

(弥生・中世・近世・現代)

所 在 地	田原本町大字鍵小字垣内312番西側道路	調査面積	27m ²
調査原因	下水道工事	担当者	奥谷知日期
調査期間	2005.7.27~10.22 (8.4~10.21は中断)	遺 物 量	5 箱

位置・環境

唐古・鍵遺跡は、標高48m前後の沖積地に立地する弥生時代を代表する環濠集落である。その占有面積は約42万m²に達する。今回の調査地は遺跡の西部に位置する。周辺では、これまでに第13・82次調査のほか小規模な調査が行われており、本地は居住域と環濠帯の境にあたることが予想された。

調査は下水道工事に伴うものである。工事幅に合わせた幅1m、南北26mのトレンチを設定した。なお、本調査地北側の工区については工事立会で対応し、環濠1条を確認している（R-200511）。

調査概要

弥生時代前期？：土坑1基

弥生時代中期初頭：溝1条

中世：土坑2基、溝2条、素掘小溝1条

近世～現代：大溝1条

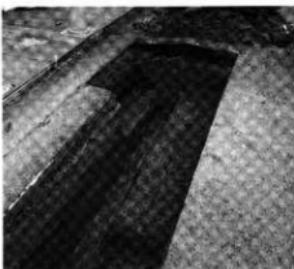
まとめ

調査の結果、本地は弥生時代の遺構・遺物とも希薄な状況で、西地区居住区の最も縁辺部にあたることが判明した。検出した弥生時代中期初頭の大溝は、その所属時期や走行方向、断面形態から、調査地北東側の第13次調査で検出した大溝の延長と考えられる。この大溝は、中期中頃に掘削される「大環濠」の内側にあたり、「大環濠」以前に機能していた環濠と想定される。この溝の検出により、集落西部における環濠復元が可能となった。

中世溝1条は第82次調査で検出した溝につながるものとみられる。今回の調査で検出した中世に所属する遺構は、唐古南氏居館跡に関連するものである。



調査地点の位置 (1:5,000)



調査地北半全景 (南東から)



弥生時代中期溝 完掘状況 (南西から)

2. 唐古・鍵遺跡 第102次調査

(弥生・中世・近代・現代)

所在地 田原本町大字鍵小字垣内271番

調査面積 45m²

調査原因 集会所の建築（重要遺跡認定による範囲確認）

担当者 奥谷知日期

調査期間 2006.1.16～2.6

遺物量 33箱

位置・環境

本調査地は、遺跡の南西部にあたる鍵集落内、八阪神社の東側隣接地にあたる。神社境内の北東隅で実施した第96次調査では、弥生時代前期～中期の溝や中世溝・近世溝等、複数時期の遺構を確認した。

調査概要

弥生時代前期？：土坑1基

弥生時代中期初頭：土坑1基

弥生時代中期中頃：土坑1基、溝1条、落ち込み1

中世：素掘小溝群

近代～現代：大溝1条

弥生時代の土坑3基からは、直柄継斧柄・膝柄斧柄などの木器未成品が出土した。この土坑群は木器貯蔵穴と考えられるが、その形態や遺物出土パターンから別の性格である可能性もある。中期中頃の溝は、南南東～北北西方向に走行し、落ち込み堆積を切る。

近現代の大溝は、東西方向に軸を持ち、ブロック土を埋上とする。

まとめ

今回の調査では、弥生時代前～中期の土坑群を検出し、居住区が本地まで拡がることが確認された。また、中期中頃に所属する厚さ0.5mの落ち込み堆積を確認した。今後の周辺調査でこの落ち込み堆積の性格を確認していく必要がある。

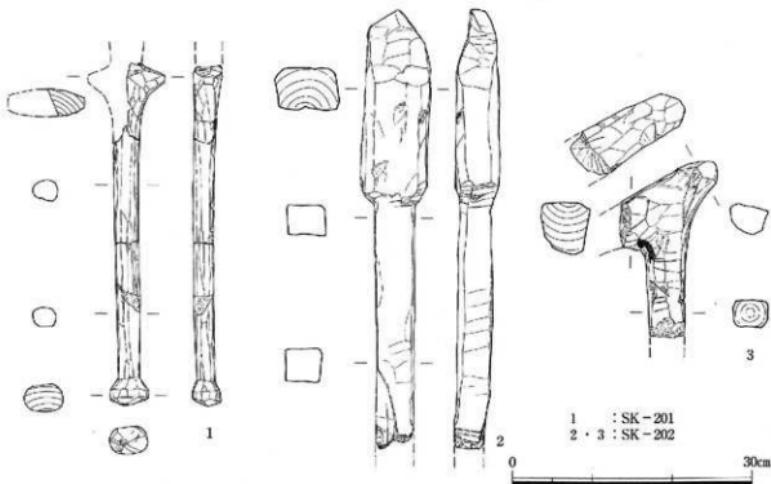
周辺住民によると、戦時中、神社境内にプロペラ機を格納しており、境内と国道を道でつなぎその両脇に濠を掘削したという。今回の調査で検出した近現代の大溝は、聞き取りによる大溝と一致するものである。



調査地全景（北から）



弥生時代土坑 綱枠未成品出土状況（南西から）



土坑から出土した斧柄未成品

今回の調査で注目されるのは、各種木製品の未成品が出土したことである。弥生時代中期初頭と中期中頃の土坑から、斧柄未成品をはじめとする計5点の製作途中の木製品が出土した。

ここでは、斧柄未成品等を図示する。1は直柄継斧柄の未成品で、頭部を欠損する。頭部と握部の境には段を有し、握部の下端に突起を作り出す。ほぼ完成にちかい形である。直柄とすると推定50cmほどの長さであり、小さな直柄となる。また、頭部と握部の段の形状もやや異なることから、直柄以外の製品を考慮する必要がある。土坑SK-201最上層から出土した。2は用途不明品の未成品で、下端を欠損する。方柱状をなし、上半は幅広になる。上端はやや尖るよう作り出す。3は藤柄斧柄の未成品である。握部は方柱状をなし、斧台部の付け根は、局所的に炭化している。斧台後面は平坦である。2・3は土坑SK-202中層からの出土である。SK-202からは、この他に網枠未成品等が出土している。

出土した土器からSK-201は大和第II-1様式、SK-202は大和第III-1様式と考えられる。

Column 1

唐古・鍵遺跡 第102次
～弥生時代～

3. 法貴寺北遺跡 第3次調査

(弥生・古墳・中世)

所在地 山原本町大字法貴寺小字宮ノ角1118番地

調査面積 166m²

調査原因 艇道改良工事

担当者 清水琢哉

調査期間 2005.11.16~12.19

遺物量 2箱

位置・環境

法貴寺北遺跡は、奈良盆地の中央、標高48m前後の沖積地に位置する。遺跡の東側に接して初瀬川が流れる。遺跡東部の第1次調査では弥生時代後期の方形周溝墓や河跡、中世の建物跡等を検出している。本遺跡で検出された方形周溝墓は、唐古・鍵遺跡の北東約600mに位置することから、唐古・鍵遺跡の墓域の可能性が考えられている。

今回の調査は遺跡南部で実施した。本地北東側の調査成果から河跡が拡がることが予想された。

調査概要

弥生時代～古墳時代：河跡1条

中世 : 素掘小溝群

調査は、工事立会部分を含めて東西約300mに及ぶ。調査区は対象地の東側46mを第1トレンチ、西側44mを第2トレンチとし、調査を実施した。その他の部分は工事立会で対応した。

第1・2トレンチ全体にわたって弥生時代後期～古墳時代の河跡が拡がっていた。

まとめ

今回の調査では、第1次調査地点で確認されていた河跡の拡がりをおさえることができた。調査範囲のうち本調査区となった東側200mの範囲では、弥生時代の河跡の上に厚いシルト質の堆積層（古墳時代頃？）が覆っており、この河跡部分では水田や方形周溝墓等は検出できなかった。工事立会で対応した西側工区では、一部で古墳時代頃の黒褐色粘質土（粘砂質）の包含層が形成されており、地形的には本調査区とした東側部分よりも早く高燥化が進んだ可能性がある。



調査地点の位置 (1:5,000)



第1トレンチ全景 (西から)



第2トレンチ全景 (東から)

4. 矢部遺跡 第3次調査

(弥生～古墳？中世？)

所在地 田原本町大字矢部小字西野田30番1

調査面積 56m²

調査原因 送電鉄塔の建設

担当者 清水琢哉・奥谷知日朗

調査期間 2005.8.22～8.23

遺物量 1箱

位置・環境

矢部遺跡は、標高49m前後の沖積地に立地する。これまでの調査では、古墳時代初頭から古墳時代終末期にかけての方形区画墓群を検出している。

今回の調査は、遺跡北端でおこなった。

調査概要

弥生～古墳時代？：河跡1条

中世？：土坑1基、柱穴1基、素掘小溝群

調査区全体で南北方向及び東西方向の素掘小溝を検出した。時期は、出土遺物が希薄であるため不明であるが、堆積土から中世の遺構とみられる。

土坑は、平面長方形で南北1.8m、東西1.4m、深さ0.9mを測る。遺物が出土していないため時期不明であるが、堆積土が中世素掘小溝堆積土のブロック土を含み近世包含層ブロック土を含まないことから、中世末頃の遺構とみられる。粘土採掘坑の可能性が高い。

出土遺物は全体に少なく、素掘小溝から土師器や瓦器の小片が少量出土したにすぎない。

まとめ

調査区全域で、弥生～古墳時代とみられる河跡の堆積を確認した。また、中世とみられる柱穴状の遺構と長方形の土坑を検出したが、周囲の出土遺物の密度は極めて低く、遺跡としては縁辺部と考えられる。



5. 笹鉢山古墳群 第6次調査

(古墳・古代・中近世)

所 在 地 山原本町大字八尾小字茶園181番3, 小字山本261番, 262番

調査面積 192m²

調査原因 範囲確認

担当者 清水琢哉

調査期間 2006.2.7~3.15

遺物量 6箱

位置・環境

笠鉢山古墳群は、標高48m前後の沖積地に位置する。1号墳は、墳丘長約50m、後円部径約33mの前方後円墳で、前方部が東北東を向く。これまでの調査により二重周濠をもつことが明らかとなっている。外濠を含めた全長は推定96mとなる。

1号墳は奈良盆地低地部の前方後円墳として墳丘が良好な状態で残る希少な例であるため、町教育委員会では継続的な範囲確認調査を実施してきた。本年度は、墳丘北側の周濠を確認することを目的として調査区を設定した。

調査概要

古墳時代：古墳1基（周濠2条）

古代：小溝3条

中・近世：素掘小溝群、落ち込み5

第10調査区南端で古墳の内濠北肩を検出した。隣接する第4次調査第7調査区で検出した内濠南肩との位置関係から、溝幅約7.5m、深さ1.1mに復元することができる。内濠からは円筒埴輪が出土した。また、中層・上層からは古代の土師器・馬齒が出土した。外濠からは、円筒埴輪が出土した。

第13トレンチでは、外濠北側付近とみられる落ち込みを確認したが、調査区の大半は現代の擾乱によって破壊されており、周濠を確定できていない。

まとめ

今回の調査では古墳北側の内濠幅を確認した。また、外濠の幅は墳丘南側と比較して半分以下となっていること、クランク状に屈曲する部分があることが明らかとなつた。



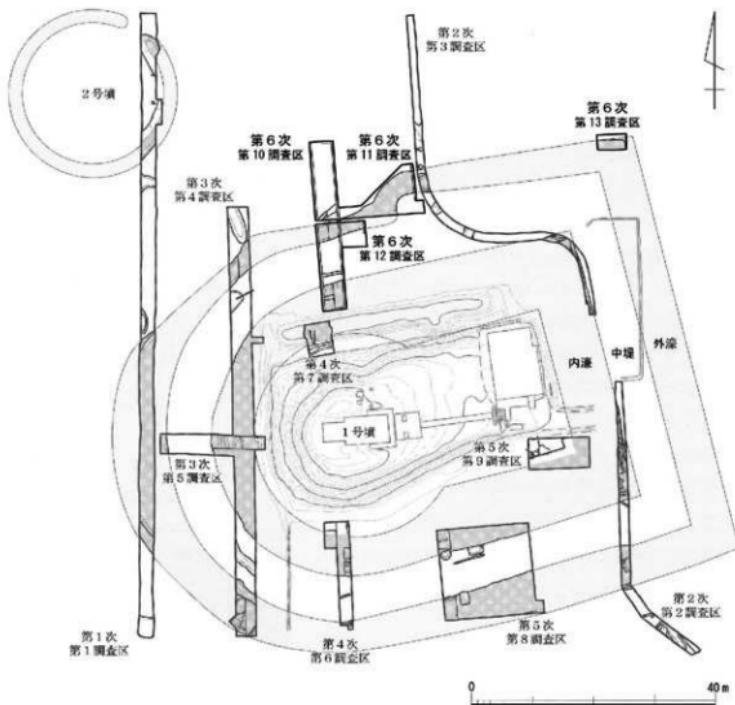
調査地点の位置 (1:5,000)



第10・11・12トレンチ全景 (北東から)



第13トレンチ全景 (西から)



墳丘北側の外濠

今回の調査により、古墳北側の外濠について多くの情報を得ることができた。後円部側で中堤の幅を維持しつつ溝幅を減じていった外濠は、くびれ部に対応する部分でクランク状に北・東に屈曲し、中堤の幅が拡がる形態となる。

外濠の規模は、墳丘南側で幅8m前後、深さ0.6m前後を測るのに対し、北側では溝幅約3m、深さ0.5m前後であった。北側の外濠は堆積土から滞水状況は少なかったと考えられる。遺物は円筒埴輪片が出土しているが、その出土量は南側外濠と同様に少なく、中堤外濠側の埴輪列の可能性がある。また、南側外濠でみられた6～7世紀前半頃の須恵器群の廃棄はみられず、古墳南側と北側の状況は大きな違いがあることが判明した。

Column 2

笠鉢山古墳群 第6次調査
～古墳時代～

6. 羽子田遺跡 第29次調査

(古墳・古代・中世)

所 在 地 山原本町小字西羽子田396番1

調査面積 305m²

調査原因 分譲住宅の建築

担当者 清水琢哉

調査期間 2005.5.12~6.8

遺物量 4箱

位置・環境

羽子田遺跡は、標高48m前後の沖積地に位置する。弥生時代中期～古墳時代前期の集落と古墳時代前期末～後期の古墳群（羽子田古墳群）が重複する。羽子田古墳群は、国重要文化財「埴輪牛」などが出土した1号墳をはじめとする前方後円墳4基、方墳12基を発掘調査で確認しているが、いずれも墳丘が削平された埋没古墳である。

今回の調査地は、羽子田遺跡の南西部に位置する。周辺の調査成果から、埋没古墳が検出される可能性があった。また、古代の道路「保津・阪手道」が調査地の北側に想定されており、古代の遺構の存在も考えられた。

調査概要

古墳時代：土坑1基、溝8条

古代：溝3条、柱穴5基、落ち込み2

中世：溝1条、素掘小溝群

古墳時代の溝は方墳の周濠となる可能性が高い。この溝からは、4～6世紀の土師器・須恵器が出土した。また、庄内期前後の破片も調査区中央付近の包含層等から出土した。

調査区北端で検出した古代の溝は、古代道路関連の遺構の可能性がある。落ち込みは耕作に関わるものであろう。

まとめ

今回の調査では、羽子田古墳群の拡がりを確認することができた。また、「保津・阪手道」の想定位置からやや南側に外れるものの、方向が一致する飛鳥時代頃の溝を検出した。このことから、古代斜行道路および周辺遺構の成立を考える上で重要な成果となった。



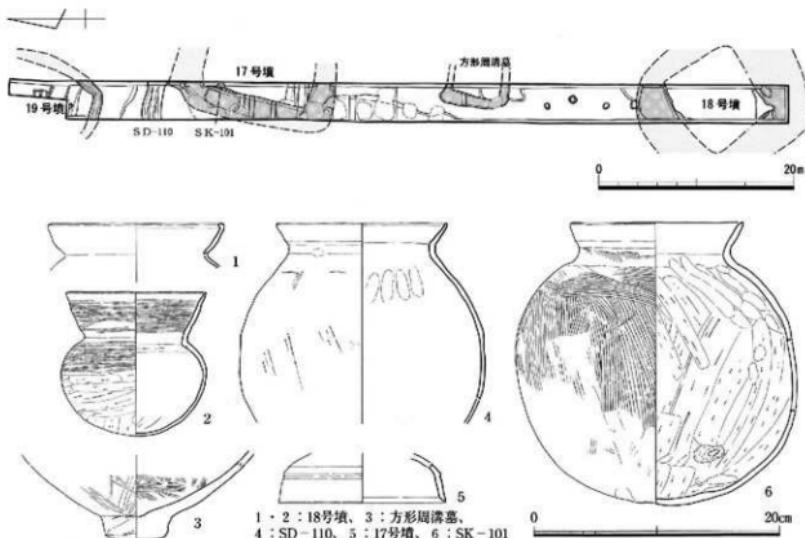
調査地点の位置 (1 : 5,000)



調査地全景 (南から)



調査地全景 (北から)



羽子田古墳群の成立と展開

羽子田古墳群は、4世紀から6世紀前半にかけての古墳群で、現在、墳丘が削平された古墳16基を確認している。今回の調査では、方形周溝墓1基と方墳3基を検出し、古墳群の拡がりを追認した。

方墳3基は、いずれも2~3側辺の周濠を確認したので、墳丘規模は10m前後である。周濠は、最も深い17号墳でも0.4~0.7m、方形周溝墓では0.1mと最も浅く、いずれもかなりの削平を受けていると判断される。

17号墳では須恵器壺胴部片が、18号墳からは布留1式の土師器丸底壺の完形品（2）が出土した。また、19号墳では布留新段階とみられる土師器小片、方形周溝墓からは弥生時代末から庄内式とみられる壺底部（3）が出土した。

このように、本調査地付近は、古墳時代前期（庄内式～布留式）と6世紀代に墓域が展開していることが確認された。いずれも小規模であり、南側の13次調査では古墳等を検出していないことから、本地が墓域の南端と考えられる。

Column 3

羽子田遺跡 第29次調査
～古墳時代～

7. 下ッ道 第2次調査

(中世？・現代)

所在地 田原本町大字西代小字寺西223番1

調査面積 3 m²

調査原因 個人住宅の建築

担当者 清水琢哉

調査期間 2005.7.13

遺物量 1 箱

位置・環境

下ッ道は、奈良盆地中央を南北に縦断する古代の計画道路である。平城京や藤原京周辺の調査で、道路面の幅が約24mであることが確認されている。田原本町周辺では、北流する寺川に重複する所や、近世の中街道とはほぼ重複する位置に想定されており、これまでのところ道路遺構は検出していない。

今回の調査は、田原本町北部の西代集落に所在する旧中街道東側隣接地で実施した。

調査概要

中世？：河跡1条

現代：井戸1基

調査は、発掘届の提出が工事着手直前であったため建物本体での調査区設定が工期との調整上困難であったこと、遺構が検出されるかどうか微妙な位置であったことなどから、浄化槽部分で12m×2.5mの調査区を設定することとなった。調査の結果、明確な遺構は検出されず、時期不明の厚いシルト堆積を確認するにとどまった。深さ1.2mまで確認したが、湧水が激しく壁面崩壊が予想されたため掘削を中止した。

まとめ

今回の調査では、調査地全体が厚いシルト堆積であり下ッ道の道路遺構は確認できなかった。ただし、調査区が狭小な面積にとどまることから、今回の調査成果のみで本調査地周辺の下ッ道について判断することはできない。今後の調査によりその位置を把握する必要があろう。



調査地点の位置 (1:5,000)



調査区全景 (東から)



南壁層序 (北から)

8. 阪手北遺跡 第5次調査

(中世?)

所 在 地 田原本町大字阪手字林昭198番2

調査面積 12m²

調査原因 個人住宅の建築

担当者 清水琢哉

調査期間 2005.7.11

遺 物 量 1箱

位置・環境

阪手北遺跡は、標高50m前後の沖積地に位置する。阪手北集落の北側で実施した第3次調査では、古代～中世の遺構が検出され、墨書き器や石鈎頭巡方が出土したことと奈良時代の官衙的な性格の遺跡である可能性が考えられた。

阪手北集落内で実施した第4次調査では鎌倉時代の遺構・遺物を検出した。また、寺院関連の遺構と考えられる室町時代の遺物も検出している。

今回の調査地は、阪手北集落の北端に位置する。旧環濠跡の北側に外れた位置であるが、第3次調査の成果等から中世の遺構が分布する可能性が考えられた。

調査概要

中世？：素掘小溝群

素掘小溝群は、北北東～南南西方向の斜方位のものであった。これは、調査地の地割りと一致する。ただし、遺物が少ないため、詳細な時期は明らかでない。

まとめ

今回の調査では、近世の屋敷地関連の遺構を検出していない。また、中世の遺構も素掘小溝群のみであり、第3・4次調査でみられた濃密な遺構分布とは異なる状況が判明した。



調査地点の位置 (1:5,000)



第2トレンチ全景（東から）



第2トレンチ南壁層序（北から）

9. 十六面・薬王寺遺跡 第23次調査

(中世・近世)

所在地 田原本町大字十六面小字十六面278番3他

調査面積 13m²

調査原因 下水道工事

担当者 豆谷和之

調査期間 2005.11.24~11.25

遺物量 2箱

位置・環境

十六面・薬王寺遺跡は、標高47~48mの沖積地に立地する。その遺跡範囲は広く、薬王寺集落、十六面集落を含み、西竹田領の一部にまで及んでいる。弥生・古墳時代の集落、古代の水田、中世の屋敷・集落などからなる複合遺跡であり、地点によってその性格は異なる。

今回は、十六面集落における調査である。十六面集落の南環濠部分にあたり、付近ではこれまでに第4・5・21次の3件の調査が行われている。これらの調査では、古墳時代後期・古代・中世・近世と4面の遺構検出面が確認されている。

調査概要

中世前期：土坑1基

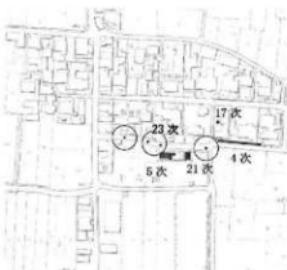
近世：大溝1条

発掘調査は、十六面公民館前の東西道路で行われた下水道立坑部分4ヶ所でおこなった。トレーナーは、西から東に向かって番号を付けている。各トレーナーのほとんどが近世大溝内の堆積であり、これらは東西に連続する1条の大溝になると考えられる。第2トレーナーにおいて、大溝の南肩を検出しておらず、そこでは中世の土坑と古墳時代の遺物包含層を確認した。

近世大溝は、最下層から明治・大正と考えられるガラス瓶等が出土するが、第4トレーナーの堆積にはこれらを含まず、幕末の陶磁器のみが出土している。

まとめ

今回の調査で検出した東西大溝は、近年まで十六面集落を囲んでいた環濠であり、少なくとも幕末までは遡ることが判明した。



調査地点の位置 (1 : 5,000)



第1 トレーナー全景 (北東から)



第2 トレーナー南壁層序 (北から)

10. 西竹田遺跡 第1次調査

(中世・近世)

所 在 地	田原本町大字西竹田字西法院1番南側道路他	調査面積	10m ²
調査原因	下水道工事	担当者	清水琢哉
調査期間	2005.7.28~8.6	遺 物 量	4 箱

位置・環境

西竹田遺跡は、田原本町西部、標高45m前後の沖積地に立地する。西竹田集落は環濠集落の痕跡を残す近世以来の集落で、中世に遡る可能性がある。大和猿楽四座の1つ金春座との関係も地名伝承に残り、付近に「金春屋敷」と呼ばれる敷地がある。

西竹田遺跡は、過去の試掘調査で鎌倉時代の遺構を検出しているものの、本調査は今回が初めてであり、遺跡の内容は明らかでない。

下水道工事は西竹田集落を東西に横断する道路下等での開削と立坑設置である。発掘調査は、立坑6カ所とし、開削工事約50mは工事立会とした。

調査概要

中世：大溝1条、小溝3条

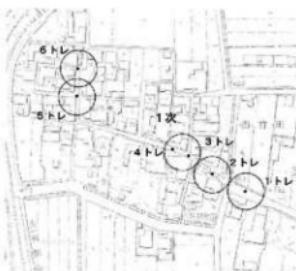
近世：大溝4条

まとめ

今回の調査では、西竹田集落の東端付近（第2トレンチ）で室町時代頃の大溝を検出した。ただし、遺物が少なく、詳細な時期と遺構の性格は把握していない。

近世の遺構としては、土坑（第3トレンチ）、大溝を検出した。大溝は、集落内部を区画する東西溝（第4トレンチ）と、集落西端を区画する南北溝（第6トレンチ）である。集落中央の東西方向の溝は近世前半の遺物を中心であり、近世後期頃には埋められ道路となっていた。

集落西端の南北方向の溝（第6トレンチ）は、現在暗渠化されているもの近年まで維持されていたという。この溝は近世後期にまで遡ることが明らかとなった。



調査地点の位置 (1:5,000)



第3トレンチ近世土坑完掘状況（東から）



第6トレンチ近世大溝完掘状況（北から）

11. 常楽寺推定地 第5次調査

(弥生・古墳・中世・近世)

所在地 田原本町大字宮古小字石橋293番4他

調査面積 143m²

調査原因 道路拡幅工事

担当者 奥谷知日朗

調査期間 2005.11.21~12.19

遺物量 35箱

位置・環境

宮古集落の東端に所在する薬師堂には、平安初期の作とされる重要文化財「木造薬師如来坐像」が安置されている。この周辺には「寺垣内」「大門」などの小字名が残っており、中世寺院の存在が考えられる。この中世寺院は、中世文書『三箇院家抄』および近世文書『招提千歳伝記』にみえる「常楽寺」と推定される。

今回の調査地は、遺跡の北端に位置する。なお、調査地南側に鎮座する春日神社の由緒等は明らかでない。

調査概要

弥生時代中期：土坑2基

古墳時代初頭：土坑2基

中世前期：土坑5基、溝2条

中世後期～近世：大溝1条、橋脚

弥生時代中期の土坑2基と古墳時代初頭の土坑1基は、いずれもその形状や涌水層の点から井戸と考えられる。

室町時代に掘削された大溝は、再掘削が行われる。再掘削溝は、溝を南へ屈曲させるようにして付け替えが行われている。この大溝の両肩部では多数の杭を検出し、これは橋脚と考えられる。

まとめ

今回の調査では、弥生・古墳・中世の各時期の遺構を検出した。特に平安時代末～鎌倉時代初頭の遺構は、溝による方形区画の内側に土坑が配置されるもので、調査後の踏査から調査地北側に中世居館が推定できる。

室町時代～江戸時代の大溝は情報が少なく、これが「常楽寺」に関連するものは今後の課題である。



調査地点の位置 (1:5,000)



調査地全景 (東から)



弥生時代土坑 遺物出土状況 (西から)

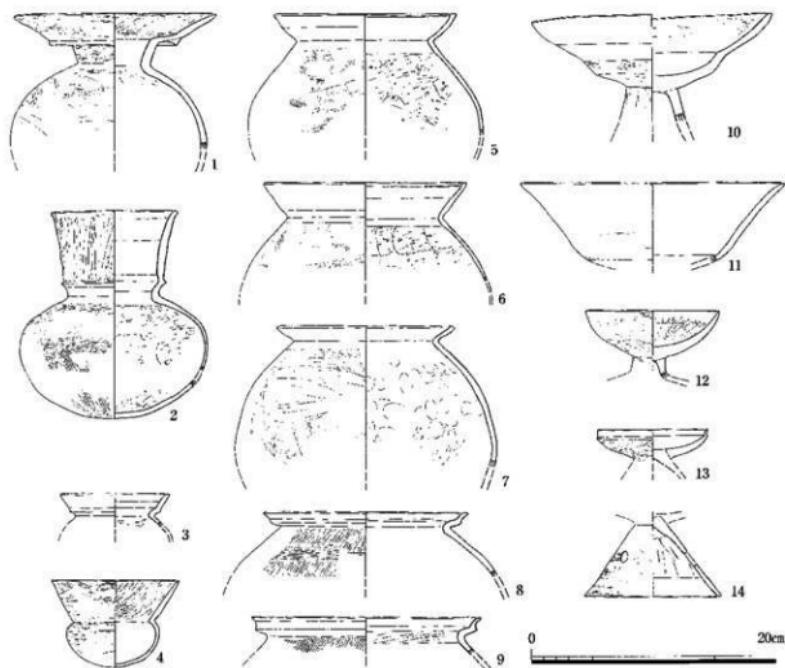


弥生時代中期の短期小集落資料

調査地北西端で検出した井戸SK-104の中層から、良好な大和第III-4様式の一括資料を得た。本様式の資料は奈良盆地低地部では少なく、唐古・鍵遺跡周辺の様相を知る貴重である。壺における櫛描摩状文の多用、大形細頸壺やタタキ成形の壺の出現、ケズリ手法の採用など、本様式の特徴をよく表している。3の胴部上半には後刻による「△」の記号が描かれる。

Column 4

常楽寺推定地 第5次調査
～弥生時代～



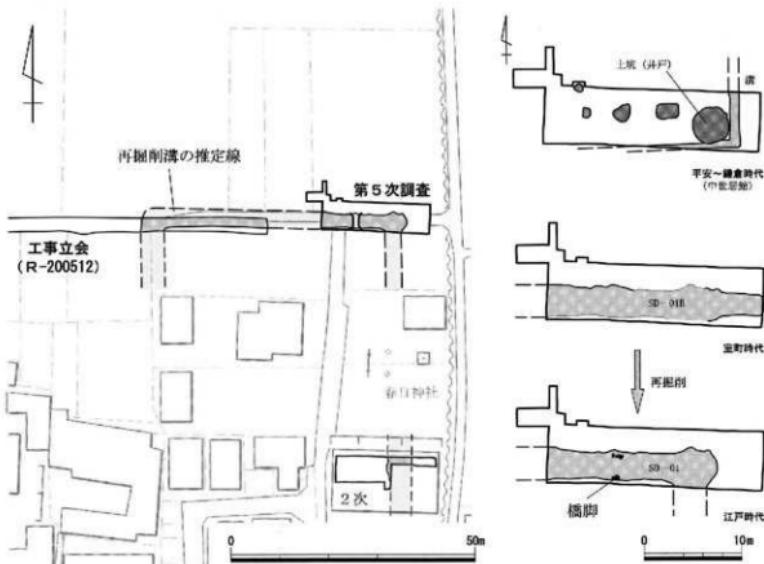
古墳時代前期の宮古周辺

調査地中央で井戸と考えられる土坑SK-101を検出した。この上層では半完形の土器が廃棄されていた。これらは布留1式に位置付けられる良好な資料で、その一部を図示する。このうち、2・3は山陰、7は阿波、8・9は伊勢湾沿岸からの搬入品であろう。2はSK-101の西半を切る中世土坑SK-52の出土であるが、本来、SK-101に伴っていたものと考えられる。

宮古周辺では、宮古北遺跡で古墳時代前期の方形区画溝を検出している他、当時期の土坑が周辺に散在して検出されている。このことから、弥生時代～古墳時代にかけてこの地域では小規模かつ短期的な集落が点在していたことが予想される。

Column 5

常楽寺推定地 第5次調査
～古墳時代～



常楽寺の範囲を推定する

今回の調査では、東西方向に軸をもつ大溝SD-01を検出した。この大溝は室町時代に掘削され、再掘削を経て江戸時代後期に埋没する。

この大溝は当初、調査区東端で収束する東西方向の溝であったが、再掘削の段階で南側へ屈曲させている。調査区西側での工事立会(R-200512)では再掘削溝の延長を確認しており、本造構は「匁」形を呈していることが判明した。その北辺は内側で約55mを測る。また、調査では橋脚とみられる多数の杭を検出した。現行道路からやや東へずれるが、出入り口にあたるものと考えられる。これらから、SD-01は「常楽寺推定地」の北限を示すものといえよう。

ただし、本調査では寺院関連遺物の出土が少なく、所属時期の点からもSD-01が寺院「常楽寺」に関わるものとは言い難い。中世寺院「常楽寺」は本調査地から約100m南側の小字「寺垣内」を中心に括がっていたことが推測され、今後、区画溝内部の様相を明らかにすることにより寺域を確定していく必要がある。

Column 6

常楽寺推定地 第5次調査
～平安～江戸時代～

12. 千代遺跡 第6次調査

(中世・近世・近代)

所 在 地 田原本町大字千代字下西1162番

調査面積 10nf

調査原因 個人住宅の建築

担当者 清水琢哉・奥谷知日朗

調査期間 2005.8.29~9.1

遺 物 量 8 箱

位置・環境

千代遺跡は、標高52m前後の沖積地に位置する。中世～近世の集落で環濠をもつ八条集落と、その周辺の遺物散布地からなる複合遺跡である。これまで5次にわたる調査がおこなわれており、特に八条集落内の調査では中・近世の集落関連遺構を多数検出している。

今回は、八条集落内北西部での調査である。建築予定範囲内に2カ所の調査区を設定し、調査した。

調査概要

中世前期：土坑1基、溝1条、柱穴7基

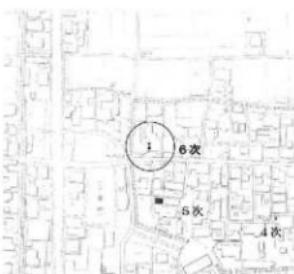
近世～近代：土坑8基

遺構検出面は3面である。地表面より深さ1.1mで中世前期、深さ0.8mで近世前期、深さ0.4mで近世後期～近代の遺構検出面を確認した。なお、中世前期遺構検出面と近世遺構検出面の間には洪水堆積の可能性のある粗砂層、その上層では中世耕作層の可能性のある青灰褐色粘質土が堆積する。

第1トレンチ（北側トレンチ）で確認した中世の遺構上面を覆う暗青灰色粘質土層からは土師器・瓦器の小片が多数出土した。近世～近代の土坑からは瓦質の流し台や瓦等が出土した。

まとめ

今回の調査により、本調査地では中世集落と近世集落の複合遺跡であることが明らかとなった。また、中世遺構を覆うように洪水堆積があり、その後、耕地化されていることが判明した。耕地化後、近世頃に造成されて再び集落が営まれるようになったと考えられる。



調査地点の位置 (1:5,000)



第1トレンチ中世完掘状況（東から）



第2トレンチ近世完掘状況（西から）

13. 法貴寺遺跡 第5次調査

(近世・近代)

所在地 田原本町大字法貴寺小字マエ田1662番1, 2

調査面積 16nf

調査原因 個人住宅の建築

担当者 清水琢哉

調査期間 2005.12.19~12.22

遺物量 1箱

位置・環境

法貴寺遺跡は、初瀬川沿いの標高50m前後の沖積地に位置する。聖徳太子が創建し秦河勝に賜ったと伝えられる法起寺（後の法貴寺）を中心に展開した中世集落跡で、これまでの調査により周囲に濠を巡らす屋敷地等を検出している。

今回の調査地は、旧初瀬川南岸、遺跡南端に位置する。近世の絵図には建物が描かれていることから、近世集落の拡がりが確認できることが予想された。

調査概要

近世後期：土坑3基、柱穴3基

近世末～近代：井戸1基、土坑3基、溝2条

遺構検出面は3面で、第1面が近世、第2面が近世末、第3面が近世後期頃とみられる。第1面の遺構として、第1調査区東端で瓦質井戸枠をもつ井戸1基と、これにとりつく竹筒を埋設した幅0.4m、深さ1.7mの暗渠を検出した。井戸の北側と西側に隣接して粗砂で埋没する土坑2基を検出した。廐水処理施設の可能性がある。

まとめ

調査の結果、本調査地が屋敷地となるのは近世後半以降であることが明らかとなった。中世以前の明瞭な遺構は検出されず、中世に遡る遺物の散布も極めて少ない。近世後半以降の遺構は高い密度で拡がっており、享和元年（1801）の絵図に描かれる旧初瀬川南岸の屋敷群は近世後半頃から形成され始めたのであろう。



調査地点の位置 (1: 5,000)



第1トレンチ全景（南から）



第2トレンチ全景（西から）

14. 平野氏陣屋跡 第13次調査

(古代?・中世)

所 在 地 田原本町759番1、3

調査面積 32m²

調査原因 個人住宅の建築

担当者 清水琢哉

調査期間 2005.9.26~9.30

遺 物 量 1箱

位置・環境

平野氏陣屋跡は、江戸時代に田原本を領した平野氏が営んだ陣屋跡である。また、下層遺構として室町時代頃の豪族居館跡が存在するほか、鎌倉時代の集落遺構も拡がる。

今回の調査は、遺跡の西南部に位置する。現建物の基礎搅乱が深いため、遺構の残存状況は悪いことが予想されたが、大溝等は残存する可能性があり、その位置が確認できる可能性があった。

調査概要

古代末? : 素掘小溝群

中世前期 : 土坑1基

中世後期 : 大溝1条

近世の遺構はすべて削平されていた。室町時代の大溝は東西方向に走行するもので、推定幅約3m、深さ約1.4mを測る。14世紀頃から16世紀頃まで再掘削により維持されていた。鎌倉時代の土坑は深さ0.3mの小規模なもので、12世紀末頃の遺物が出土した。また、下層遺構として、素掘小溝群を検出した。遺物が出土していないため時期は明らかでないが、鎌倉時代の遺構面より下に位置するため、古代～中世初頭頃の遺構とみられる。

まとめ

今回の調査では、近世の遺構を確認することができなかった。想定される陣屋の大溝は本調査地より西側の現道路下に埋没している可能性がある。鎌倉時代の遺構は、周辺の調査で井戸等を検出しており、付近に集落が拡がる可能性が考えられる。室町時代の大溝は、これまでの調査でも検出している豪族居館関連の遺構とみられる。



調査地点の位置 (1:5,000)



調査地全景 (北から)



室町時代大溝完掘状況 (西から)

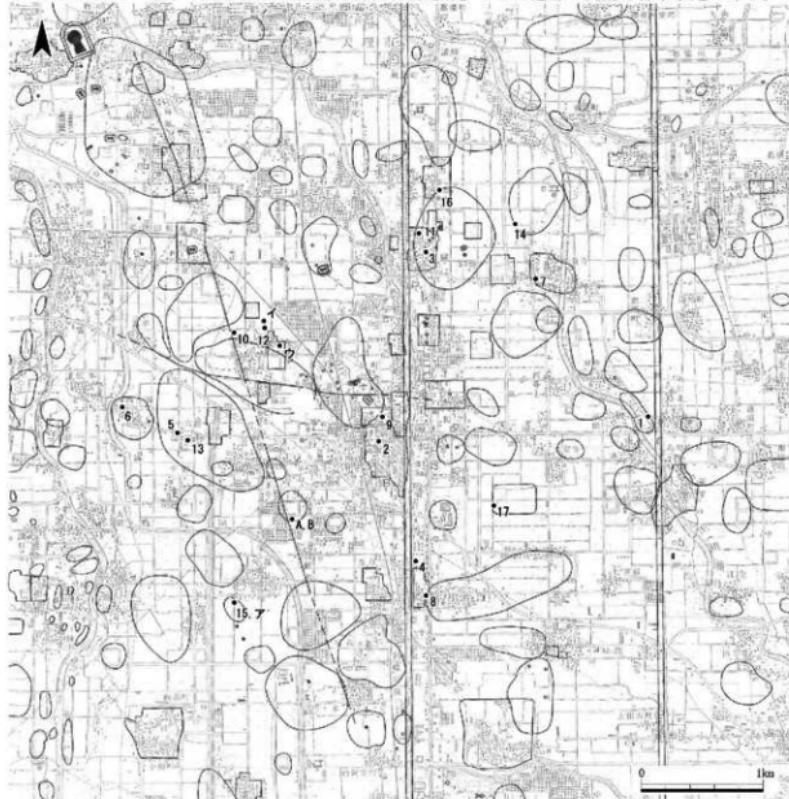
(2) 試掘調査・工事立会・遺跡有無踏査の概要

2005年度（平成17年度）に実施した試掘および工事立会、踏査は、第6～8表に示すとおりである。試掘調査は2件、工事立会は17件、踏査は3件である。

薬王寺南遺跡における2件の試掘調査では、目立った遺構が検出されなかった。

工事立会では、各遺跡で成果を得られた。唐古・鍵遺跡（R-200511）では環濠が検出された。常楽寺推定地（R-200512）では周知の遺跡外で遺構が確認されたため、範囲を拡大する必要がある。また、大字矢部地内の周知の遺跡外で行われた工事（R-200515）では、遺物が採集された。

本調査や工事立会の成果から踏査を実施した。周知の遺跡外で遺物の散布が認められた2件は、新規発見の遺跡「矢部中曾司遺跡」「宮古石橋遺跡」として遺跡の異動を行う予定である。



第5図 田原本町の遺跡と試掘・工事立会・踏査地点

アルファベット：試掘調査
アラビア数字：工事立会
カタカナ：踏査

第6表 2005年度 試掘調査一覧

番号	遺跡名	調査地	原因者	原因	遺跡番号 (田教文発)	遺跡日	調査日	調査面積	担当者	遺物
A	薬王寺南遺跡 (S-200501)	田原本町薬王寺 184番6	個人	個人住宅の 建築	50	05.9.26	05.9.28	2 m ²	豆谷 奥谷	なし
B	薬王寺南遺跡 (S-200502)	田原本町薬王寺 184番8	個人	個人住宅の 建築	52	05.9.26	05.9.28	2 m ²	豆谷 奥谷	なし

薬王寺南遺跡 試掘調査 (S-200501/S-200502)

(中世)

位置・環境

薬王寺南遺跡は、弥生時代から平安時代の遺物が採集される遺物散布地で、薬王寺池周辺を遺跡範囲とする。遺跡の西半では、古代道路である筋道が南南東-北北西方向に斜行する。薬王寺池の西縁が条里に沿わないのは、筋道に規制された結果と考えられる。

薬王寺池南側の南北道路では平成16年度に下水道管埋設に伴う工事立会をおこない、筋道とほぼ同方向に走行する河跡を確認した。時期は、古代に所属する可能性がある。今回の試掘調査2件は、その西側にある。

調査概要

時期不詳：河跡1条

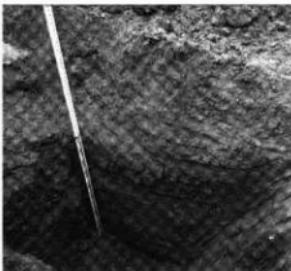
S-200501、S-200502の両調査区で、旧水田耕土層と地山層の間で厚さ0.3~0.5mの砂層堆積層を確認した。遺物は出土していない。

まとめ

今回の調査では、河跡とみられる堆積層を確認した。この河跡は、平成16年度の工事立会で確認したものと同一のものである。



調査地点の位置 (1:5,000)



S-200501南壁層序 (北から)

第7表 2005年度 工事立会一覧表

遺跡名	立会地	原因者	工事の目的	進退番号 (田文数発)	進退日	立会者	調査日	内 容
1 平田クアリティ遺跡 (R-200501)	田原本町平田 20番1、208番2	個人	個人住宅の 建築	124	2005.3.30	豆谷	2005.4.1	基礎掘削時に立会。掘削は客土内にとどまる。工事実施。
2 寺内斯遺跡 (R-200502)	田原本町 602番1	個人	個人住宅の 建築	118	2005.3.1	豆谷	2005.4.3	基礎掘削時に立会。掘削は既存建物脇体時の敷石内にとどまる。工事実施。
3 唐古・鍵遺跡 唐古南氏船塚墓定地 (R-200503)	田原本町唐古 283番11、 253番13	個人	個人住宅の 建築	68	2004.9.6	豆谷	2005.4.24	基礎掘削時に立会。掘削は客土内にとどまる。工事実施。
4 日光寺推定地 (R-200504)	田原本町千代 337番5、339 番1	細山商 事株式 会社	分譲住宅の 造成	126	2005.3.30	豆谷	2005.5.19	遺跡北側隣接地での工事。客土2m以上で、掘削は客土内にとどまる。工事実施。
5 十六面・薬寺遺跡 (R-200505)	田原本町保津 309番	個人	個人住宅の 建築	12	2005.6.8	清水	2005.6.29	基礎掘削時に立会。掘削は客土内にとどまる。工事実施。
6 西竹田遺跡 (R-200506)	田原本町西竹 田1番南側道 路他	田原本 町	下水道工事	20	2005.6.30	清水	2005.8.31 ～10.26	開削部分に立会。開削の方向へ一致する西北→東南東方向の大溝(近世後期段)等を検出。工事実施。
7 法貴寺遺跡 (R-200507)	田原本町法貴 寺1632番	個人	個人住宅の 建築	48	2005.9.20	豆谷	2005.9.27	基礎掘削時に立会。掘削は表土層上面まで。工事実施。
8 日光寺推定地 (R-200508)	田原本町千代 319番1	個人	賃貸住宅の 建築	58	2005.10.6	清水	2005.10.18	敷地中央で一層深掘りして層序を確認する。美戸T11-125m中貫包含層。階級改良は深さ0.8mまでとする。工事実施。
9 寺内町遺跡 (R-200509)	田原本町 345番の1・36 番1	個人	共同住宅の 建築	42	2005.8.25 ～2005.10.20	豆谷	2005.11.1	基礎掘削時に立会。掘削は解体前の旧地主にとどまる。工事実施。
10 保津・宮古遺跡 (R-200510)	田原本町宮古 227番3の1	個人	個人住宅の 建築	54	2005.9.28	清水	2005.11.4	基礎工事中に立会。掘削は客土内にとどまる。工事実施。
11 唐古・鍵遺跡 (R-200511)	田原本町唐古 1番北側道路他	田原本 町	下水道工事	22	2005.6.30	豆谷	2005.11.3 ～11.8	下水道開削工事時に立会。弥生時代微礫、中世大溝等を検出。工事実施。
12 常楽寺推定地 (R-200512)	田原本町宮古 293番2、294 番2北側道路	田原本 町	道路工事	34	2005.7.22	奥谷 豆谷 清水	2005.11.22	周知の埋蔵文化財伝出地での工事。深さ1m、幅2m、延長50mの道路掘削工事時に立会。近世大溝、土坑等を検出。工事実施。遺跡の発見を提出する。
13 十六面・薬王寺遺跡 (R-200513)	田原本町十六 面278番3他	田原本 町	下水道工事	56	2005.10.4	豆谷	2005.11.28 ～12.8	開削部分および基礎掘削時に立会。古墳時代遺物包含層・中世の河跡等を検出。工事実施。
14 法貴寺北遺跡 (R-200514)	田原本町法貴 寺1114番1 北側道路他	田原本 町	農道整備事 業	44	2005.8.30	清水	2005.11.1 ～06.1.3	道路擁壁工事の開削時に立会。全体が弥生時代～古墳時代の河跡とみられる。工事実施。
15 欠部中曾司遺跡 (R-200515)	田原本町矢部 503番1	田原本 町	道路工事	-	-	豆谷	2006.2.7	タカラキ古墳の周辺にあるため、工事時に踏査。掘削は0.3m程度で構造面に達していないが遺物の散布を確認。
16 唐古・鍵遺跡 唐古氏船塚墓定地 (R-200516)	田原本町唐古 530番2の1・ 一部	株式会 社彩華	飲食店の建 築	68	2005.11.11	豆谷	2006.3.22	基礎工事中に立会。深さ0.7mの掘削で、旧畑土内にとどまる。工事実施。
17 桐ノ森遺跡 (R-200517)	田原本町大木 82番1	個人	青空駐車場 の造成	80	2006. 1.17	豆谷	2006.3.22 ～3.31	敷地内の字盤設置に伴う工事立会。掘削は水田床土層にとどまる。工事実施。

第8表 2005年度 遺跡有無踏査一覧表

遺跡名	調査地	踏査日	踏査者	踏査理由	踏査結果
ア 欠部中曾司遺跡 (T-200501)	田原本町矢部 480番1他	2005.3.9	豆谷 奥谷	岡知の遺跡範囲外である欠部中曾司南西側で実施した工事立会で遺物が発見された(R-200515)。辺境に未確認の遺跡が証明が可能かを考えられたため、踏査を実施した。	古墳時代の上部器、須恵器、瓦器や石器を採集した。当該地に新規確認の遺跡「矢部中曾司遺跡」の存在が考えられる。宇「私塚」や辺境の古墳の存在から、この範囲にも埋葬地が存在する可能性も考えられる。
イ 宮古石橋遺跡 (T-200502)	田原本町宮古 450番1他	2005.3.24	奥谷	奈良寺推定地第5次調査では、道路範囲外である奈良坂北側に伸びる中世の溝を検出した。奈良坂北側および東西には、正方形の地割りがなされている遺跡が2ヶ所ある。ここに斎殿の跡の存在が想われるため、踏査を実施した。	弥生上部器、須恵器、瓦器と石器を採集した。特に辺境では遺物が濃度で分布している。ここに中世地割の存在が考えられ、字名から「宮古石橋遺跡」として遺跡の新規確認を行う必要がある。
ウ 常楽寺推定地 (T-200503)	田原本町宮古 277番、 279番1、2	2004.3.24	清水 奥谷	当地は道路の東側、構成基盤地盤にあたる。「大和古墳群調査記」にも記載があり、説明が引出せる地盤として知られている。地盤調査を行ったところ、砲弾片が散在していた。	説明被片数点と十脚器小片を採集した。これらの遺物は中世に属する見られるが、詳細な時期は不明。現在でも地場が散在している状況が確認された。

唐古・鍵遺跡 工事立会（R-200511）

所 在 地 田原本町大字鍵小字垣内391番1 北側道路他

立会原因 下水道工事

立会期間 2005.11.28~12.8（延べ3日）

立会面積 11m²

担当者 豊谷和之・清水琢哉・奥谷知日朗

遺 物 量 3箱

位置・環境

今回の工事立会地点は、鍵集落の北端に位置する。下水道管の埋設に伴うもので、その工事延長は東西約20mである。工事箇所は住宅が近接し、道路幅が狭く発掘調査の安全確保ができないことから、工事立会で対応した。

調査概要

現地表から約0.7mで、厚さ約0.2mの中世遺物包含層を検出した。この包含層の直下が弥生時代～中世の遺構検出面である。

弥生時代後期：溝1条

中世：溝2条

近世：河跡1条

弥生時代後期の大溝（SD-2101）は、溝幅約3m、深さ約1mを測り、大和第VI-2様式を中心とした土器が多量に出土した。

まとめ

今回の工事立会で確認した弥生時代の溝は、その位置関係から第29次調査で検出したSD-110につながる環濠で、いわゆる「大環濠」の外側にあたるものである。



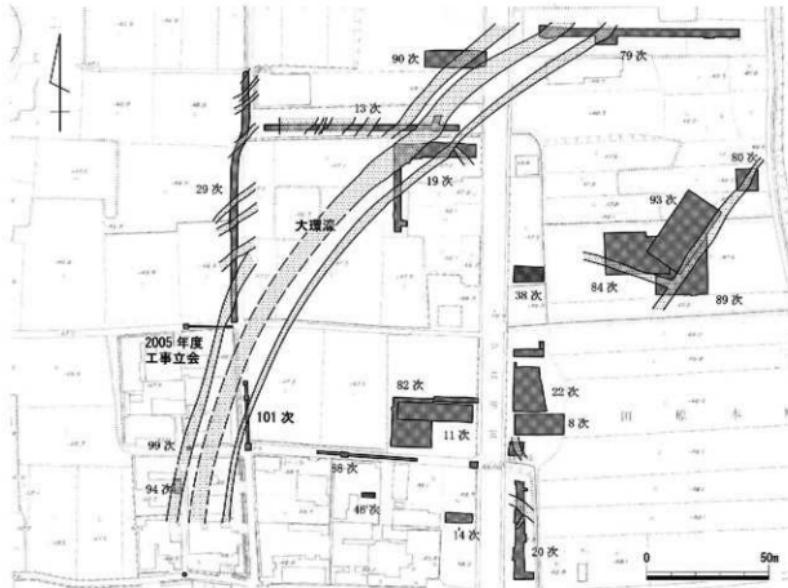
立会地点の位置 (1:5,000)



南壁堆積状況



弥生時代後期大溝（SD-2101）出土遺物（1:4）



ムラを囲む西側の環濠

唐古・鍵遺跡第101次調査および工事立会では、集落西側を囲む環濠2条を検出した。これらの環濠から、集落居住区の範囲がほぼ確定した。

第101次調査で検出した弥生時代中期初頭の大溝は、調査地北東で実施している第19次調査SD-203・1203と同一遺構とみられる。この溝は、中期中頃に掘削される「大環濠」以前に機能していた環濠である。また、工事立会で検出した後期前半の溝は、第29次調査の環濠SD-110につながるものである。

これまでの調査により、「大環濠」は中期初頭の環濠より6~8m外側に掘削されていることが判明している。今回の調査によって、「大環濠」は第101次調査地と工事立会地の間に位置することが推測されよう。

Column 7

唐古・鍵遺跡 工事立会
(R-200511)

～弥生時代～

十六面・薬王寺遺跡 工事立会（R-200513）

所在地 田原本町大字十六面2781番1

担当者 豆谷和之

立会原因 下水道工事

遺物量 1箱

立会期間 2005.11.28~12.8（延べ11日）

位置・環境

十六面集落における下水道工事は、公民館前の東西道路内立坑部分を第23次調査として実施し、その他の立坑・開削部分は工事立会として対応した。市杵神社・安堂寺の東側道路と十六面集落の西半部分では調査を行う作業スペースが確保できないことや生活道路であることから工事立会として対応した。

調査概要

①市杵神社および安堂寺の東側道路（No.1）

市杵神社の東側では、現地表下約1.6mで青色粘土層を検出した。中世あるいは近世の溝堆積と考えられる。

安堂寺の東側では、現地表下約0.5mで厚さ0.4m程の青灰色シルトの落ち込みを検出した。姥口の羽釜が多数出土し、何らかの造構と考えられる。また、現地表下約1.2mで検出した厚さ0.2m程の青灰色粘土層からは完形の瓦器？が出土した。

②十六面集落西部（No.6）

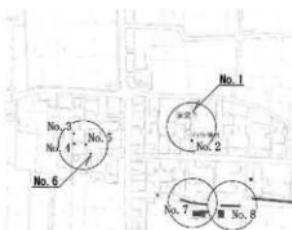
現地表から1.2~1.6m下で良好な遺物包含層を検出した。この遺物包含層は、褐色系の色調で厚さは30~50cmに及ぶものである。古墳時代の遺物を含んでいた。また、この上部堆積層についても、道路部分のため擾乱が激しいが中世～近世の遺物包含層であると考えられる。

③十六面集落南部（No.7、9）

現地表下1.4~1.5mで、厚さ30~60cmの近世大溝埋土を確認した。これは第23次調査で確認したものである。

まとめ

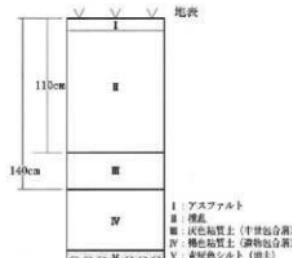
今回の工事立会により、市杵神社および安堂寺周辺では中世～近世の造構分布が、十六面集落西部には古墳時代～近世の遺物包含層の抜がることが明らかになった。



立会地点の位置 (1:5,000)



市杵神社東側道路（No.1）層序 (1:40)



十六面集落西部（No.6）層序 (1:40)

I - 3. 田原本町唐古・鍵遺跡調査検討委員会

(1) 委員会の目的

田原本町唐古・鍵遺跡調査検討委員会は、当遺跡に埋蔵されている文化財の実態を把握し、保存と活用をはかる方策、検討についての諸調整とその円滑な推進を図ることを目的として、当教育委員会に設置されたものである。委員は、考古学者と県教育委員会のメンバーで構成されている。

(2) 調査検討委員会 2005年度委員

委員名	役職
橋口 隆康	奈良県立橿原考古学研究所 所長
金関 惣	大阪府立弥生文化博物館 館長
森 浩一	同志社大学 名誉教授
石野 博信	香芝市二上山博物館 館長
工業 善通	大阪府立狹山池博物館 館長
寺澤 薫	奈良県立橿原考古学研究所 研究部長
西藤 清秀	奈良県教育委員会文化財保存課 主幹
塙本 善章	奈良県教育委員会文化財保存課 埋蔵文化財係長

(3) 2005年度 調査検討委員会実施内容

日時	場所	内容
2006.3.23	田原本町役場 会議室	1. 唐古・鍵遺跡報告書作成事業について 報告書の概要と進捗状況 調査成果の重要項目 2. その他 平成17年度の唐古・鍵遺跡の調査成果 史跡地の公有化





II. 資料の整理と活用・普及

1. 埋蔵文化財の整理・保管

平成17年度の発掘調査・工事立会・遺跡踏査に伴い保管した埋蔵文化財は、遺物コンテナ111箱・ナイロン袋他で第1表のとおりである。遺物量は、これまでの年度別の収納保管数と比較すると激減している。これは唐古・鍵遺跡の居住区における調査が少なく、かつ小規模であったためである。遺物量の6割を占めるのは、弥生の遺物が出土した唐古・鍵遺跡と常楽寺推定地で、それ以外は町内の古墳時代以降の遺跡で10箱未満となる。

第1表 平成17年度の埋蔵文化財保管数

調査番号	遺跡名	調査次数	明細	遺物量	
				現場後	洗浄後
H17-01	羽子田遺跡	第29次調査	土師器・須恵器・瓦器等	4箱	3箱
H17-02	阪手北遺跡	第5次調査	土師器・須恵器・瓦器等	1箱	1箱
H17-03	下ツ道	第2次調査	土師器等	1箱	1箱
H17-04	唐古・鍵遺跡	第101次調査	弥生上器・土師器・瓦質土器・近世陶磁器・石器等	5箱	4箱
H17-05	西竹田遺跡	第1次調査	土師器・瓦質土器・近世陶磁器・木製品等	4箱	2箱
H17-06	矢部遺跡	第3次調査	土師器・瓦器等	1箱	1箱
H17-07	丁代遺跡	第6次調査	土師器・瓦器・近世陶磁器・瓦等	8箱	7箱
H17-08	平野氏陣屋跡	第13次調査	土師器・瓦質土器・瓦器等	1箱	1箱
H17-09	法貴寺北遺跡	第3次調査	弥生上器・土師器・須恵器・瓦器等	2箱	1箱
H17-10	常楽寺推定地	第5次調査	弥生上器・土師器・瓦器・瓦質土器・瓦・木器等	35箱	18箱
H17-11	十六面・薬王寺遺跡	第23次調査	土師器・近世陶磁器・木器等	2箱	1箱
H17-12	法貴寺遺跡	第5次調査	土師器・瓦質土器・近世陶磁器・瓦等	1箱	1箱
H17-13	唐古・鍵遺跡	第102次調査	弥生上器・近世陶磁器・瓦・木製品等	33箱	18箱
H17-14	佐鉢山古墳群	第6次調査	土師器・須恵器・埴輪等	6箱	8箱
R-200508	H光寺推定地	工事立会	土師器・瓦器	ナシ	ナシ 1袋 (12点)
R-200511	唐古・鍵遺跡	工事立会	弥生土器・土師器・瓦器・木器・石器等	3箱	3箱
R-200512	常楽寺推定地	工事立会	瓦質土器・瓦・土製品	1箱	1箱
R-200513	十六面・薬王寺遺跡	工事立会	土師器・瓦器	1箱	1箱
R-200514	法貴寺北遺跡	工事立会	弥生上器・土師器	1箱	1箱
R-200515	矢部中曾司遺跡	工事立会	須恵器・土師器・瓦器	ナシ	ナシ 1袋 (12点)
T-200501	矢部中曾司遺跡	踏査	須恵器・土師器・瓦器・火打石	ナシ	ナシ 2袋
T-200502	常楽寺推定地	踏査	土師器皿5点・土製品16点	21点	21点
T-200503	宵古石橋遺跡	踏査	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器	1箱	ナシ 1袋 ナシ 3袋

※1 遺物明細と現場後の遺物数量は、埋蔵文化財発見届・埋蔵文化財保管証に合致する。

※2 遺物数量は遺物箱（コンテナ）(L54×W34×H15cm)とナイロン袋（大・中・小）で換算・収納した量である。

※3 洗浄後の数量は、主に土器の数量であり、それ以外の木製品等は、第2表にまとめた。

平成17年度に出土した遺物は、当年度において全て洗浄を終了し、土器・石器・木製品等の項目による分別収納をおこなった。調査終了時点での遺物総量（埋蔵文化財発見届）は、111箱であるが、洗浄後の分別によって土器73箱、土製品2箱他（第2表）になっている。なお、洗浄・第1次整理までは終了しているが本整理は未着手である。

遺物全体の種別内訳としては、弥生土器と中近世の土器類が大半を占めた。この他、木製品や石製品がある。これ以外では金属器、土製品の人物と木・石・種子などの自然遺物サンプルがあるがごく僅かである。

第2表 平成17年度調査分の遺物種

	遺跡名	調査次数	土製品	焼土塊	木製品	石製品	骨製品	金属器	瓦片	漆喰	木	石	獸骨・貝	種子	炭化米
H17-01	羽子田遺跡	第29次調査	○	○	-	-	-	○	-	-	○	○	○	○	-
H17-04	唐古・鍾遺跡	第101次調査	○	○	○	○	-	○	-	-	○	○	○	○	○
H17-05	西竹田遺跡	第1次調査	○	-	○	○	○	○	-	-	○	○	○	○	-
H17-07	千代遺跡	第6次調査	2	○	○	○	-	○	○	-	○	○	-	○	○
H17-08	平野氏附屋跡	第13次調査	○	○	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-
H17-09	法貴寺北遺跡	第3次調査	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-
H17-10	常楽寺推定地	第5次調査	○	○	7	○	-	○	○	-	○	3	○	○	○
H17-11	十六曲・巖寺遺跡	第23次調査	○	○	○	-	-	○	-	-	○	○	○	-	-
H17-12	法貴寺遺跡	第5次調査	-	-	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-
H17-13	唐古・鍾遺跡	第102次調査	○	○	1	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○
H17-14	鎧鉢山古墳群	第6次調査	○	○	-	○	-	○	○	-	○	○	○	○	-
R-200511	唐古・鍾遺跡	工事立会	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R-200512	常楽寺推定地	工事立会	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
T-200502	常楽寺推定地	踏査	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
T-200503	宮古石橋遺跡	踏査	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-

* 少量遺物は、複数次数あるいは複数遺跡をまとめて分別収納しているため、コンテナ量で表すことができないので、有(○)無(-)で示した。また、数量が表示されているものはコンテナ量である。

第3表 平成17年度調査の図面・写真の保管数量

遺跡名	調査次数	図面	35mm				4×5				6×7		
			カラー ボジ		モノクロ ネガ		カラー ボジ		モノクロ ネガ		カラー ネガ		
			現 場	遺 物	シート数	コマ 数	シート数	コマ 数	カ ット数	枚 数	カ ット数	枚 数	
H17-01	羽子田遺跡	第29次調査	20	4	13	244	7	240	-	-	-	-	
H17-02	阪手北遺跡	第5次調査	3	-	2	34	1	33	-	-	-	-	
H17-03	下ノ道	第2次調査	2	-	1	20	1	20	-	-	-	-	
H17-04	唐古・鍵遺跡	第101次調査	6	-	7	125	4	124	-	-	-	-	
H17-05	西竹田遺跡	第1次調査	7	-	5	93	3	94	-	-	-	-	
H17-06	矢部遺跡	第3次調査	3	-	2	35	2	40	-	-	-	-	
H17-07	千代遺跡	第6次調査	4	-	5	96	3	95	-	-	-	-	
H17-08	平野氏陣屋跡	第13次調査	6	-	4	78	3	79	-	-	-	-	
H17-09	法貴寺北遺跡	第3次調査	12	-	8	160	5	156	-	-	-	-	
H17-10	常楽寺推定地	第5次調査	22	7	15	294	10	337	9	14	9	14	
H17-11	十六面・薬王寺遺跡	第23次調査	7	-	3	45	2	43	-	-	-	-	
H17-12	法貴寺遺跡	第5次調査	5	-	5	92	3	97	-	-	-	-	
H17-13	唐古・鍵遺跡	第102次調査	13	-	13	248	8	249	4	5	4	5	
H17-14	鎌鉢山古墳群	第6次調査	23	-	15	300	9	301	14	19	13	21	
S-200501	薬王寺南遺跡	試掘調査	1	-	1	7	1	5	-	-	-	-	
S-200502	薬王寺南遺跡	試掘調査	1	-	-	9	-	10	-	-	-	-	
R-200505	十六面・薬王寺遺跡	工事立会	-	-	1	4	1	4	-	-	-	-	
R-200508	日光寺推定地	工事立会	-	-	-	5	-	5	-	-	-	-	
R-200511	唐古・鍵遺跡	工事立会	3	2	2	32	1	32	-	-	-	-	
R-200512	常楽寺推定地	工事立会	3	-	1	13	0	13	-	-	-	-	
R-200513	十六面・薬王寺遺跡	工事立会	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
R-200514	法貴寺北遺跡	工事立会	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
R-200515	矢部中曾司遺跡	工事立会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
T-200501	矢部中曾司遺跡	踏査	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計			147	13	103	1934	64	1977	54	76	52	80	14
													8

2. 資料の保存と管理

(1) 木製品の保存処理

平成17年度は、唐古・鍵遺跡 第93次調査出土の大型建物柱の保存処理を行った。柱は直径90cmを超える大木のため、平成16年度より3年間保存処理を継続する予定で、本年度は2年目に当たる。



木器保存処理機

(2) 資料の寄贈

5月14日、樺原市在住の吉川元明氏より、下記の資料の寄贈を受けた。

資料名	登録番号	法量				備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)	
褐鉄鉱	MX-標本-0004	9.6	8.9	7.0	524.88	美濃塗石（一部欠損）
褐鉄鉱	MX-標本-0005	13.6	9.6	8.4	594.32	生駒山採集（一部欠損） 内部に粘土塊



MX-標本-0004



MX-標本-0005

(3) 発掘調査・出土遺物の写真撮影とデジタル化

内容	遺跡	次数・資料	フィルムサイズ	数量	備考
撮影 (佐藤右文)	清水風、法貴寺 保津・宮古他	土器・石器・木器	カラーボジ (4×5)	45	企画展図録用
	唐古・鍵	第93次他 土器・石器・木器他	カラーボジ (4×5) モノクロ	52 337	報告書用
デジタル化	唐古・鍵	第90・93・97・98次 遺構写真	カラーボジ (4×5)	50	CD 2枚

(4) 資料の製作

平成17年度は、以下の複製品・復元品を製作した。

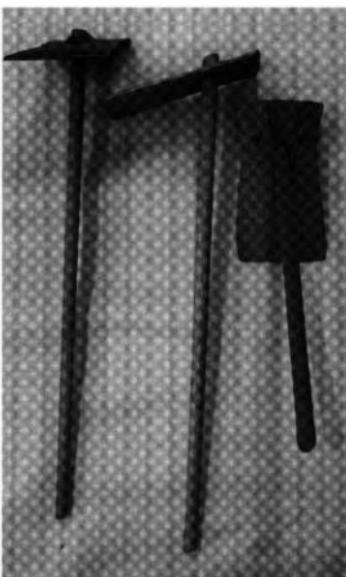
委託請負人	内容	資料名	点数	備考
(株) スタジオ三十三	複製品製作	芝道跡 絵画上器	1	壺に描かれた建物
	復元製作	須恵器 大壺	1	笠峰山古墳群(1号墳) 第5次調査出土品
	復元品製作	木製鍬	3	参考資料: 唐古・鍬道路 第40・73次出土



▲絵画上器
レプリカ



◀須恵器大壺



復元木製鍬

3. 遺跡の整備

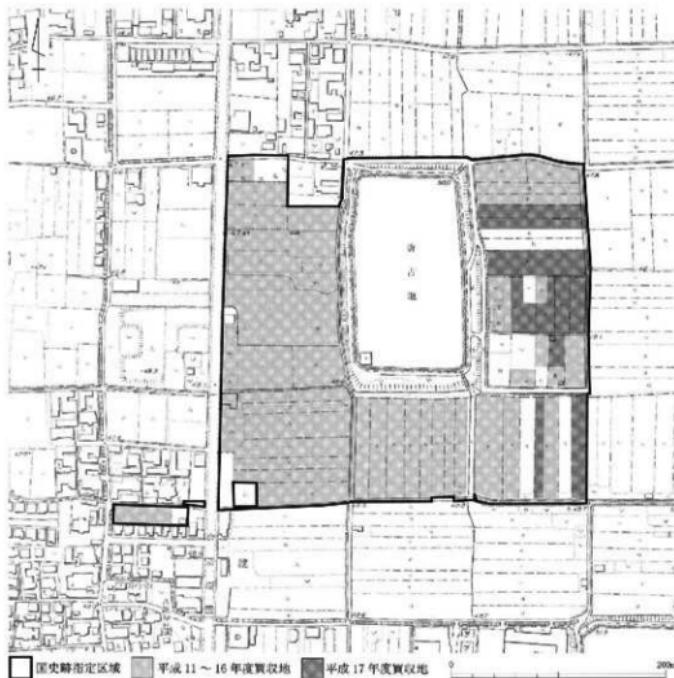
今年度は、国史跡 唐古・鍵遺跡の整備として、以下の事業を行った。

(1) 史跡の公有化

唐古・鍵遺跡は、平成11年1月27日、唐古池を中心とする範囲の98,957.73m²（159筆）について国の史跡指定を受けた。また、平成14年12月19日には、鍵地区において検出した弥生時代中期初頭の大型建物跡部分を含む1,857.93m²（鍵248番2他7筆）について追加指定を受けた。これら指定を受けた範囲について、町では平成11年度から公有化を進めている。

平成17年度の公有化は9,886m²で、全公有化面積の88%となった（唐古池、里道、水路除く）。

年 度	地 番	面 積
11～16年度	唐古 50-2 ほか 計 59筆	52,072m ²
	鍵 225-1 ほか 計 39筆	
17年度	唐古 131-1 ほか 計 8筆	9,886m ²
	鍵 222-1 ほか 計 2筆	
合計	計 108筆	61,958m ²



(2) 復元楼閣の修理

復元楼閣は、唐古・鍵遺跡 第47次調査で出土した「樓閣の描かれた土器片」をもとに、石野博信氏ほか4名で構成される検討委員会での討議を経て、平成6年3月に竣工した。その後、平成9年8月には、屋根の茅葺きや渦巻き飾りが傷んだため、修理を実施した。今回も茅葺きや渦巻き飾りの傷みに伴い修理を実施し、屋根については腐食部の除去と刺し茅を、渦巻き飾りについてはビニール巻きの取替えと固定を行った。

また、修理に伴って足場を組み立てたため、上層部の見学が可能となり、3月19日(日)に一般公開を実施した。



竣工



仮設足場組立状況



差し茅状況



上層屋根 棟丸太・棟飾り取付



下層屋根 丸太・飾り渦巻き取付

4. 研究活動

平成12年度より唐古・鍵遺跡共同研究会を継続してきたが、本年度より「弥生時代の稻作農耕に関する総合的研究」という研究テーマを新たに設定し、下記の日程で研究会を開催した。このテーマは平成18年度まで継続し、成果については別途報告書を作成する。

日 時：3月29日（水）午後2～5時

会 場：研修室（田原本青垣生涯学習センター2F）

参加者：12名

発 表：樋上 異 「鍵の機能に関する基礎的研究」

報告1：石川ゆずは「唐古・鍵遺跡の石庵丁と木庵丁」

報告2：豆谷 和之「唐古・鍵遺跡の取り扱いの一例」



研究会風景

5. 講座

平成17年度には、以下の講座を開講した。

（1）考古学実践講座

考古学実践講座は、実践講座Ⅰ（入門編）・実践講座Ⅱ（中級編）・実践講座Ⅲ（実験考古学）で構成され、今年度は実践講座Ⅰ（入門編）・Ⅲ（実験考古学編）を開講した。

なお、各講座は当ミュージアムの学芸員が担当したが、「考古学実践講座Ⅲ（実験考古学②）弥生時代の機を織る」に関しては、酒野晶子氏（元・東大阪市民美術センター）に講師を依頼した。

【考古学実践講座Ⅰ（入門編）】

日 時	内 容	会 場	受 講 者
10月1日（土）	考古学入門	会議室	21名
11月5日（土）	田原本町の遺跡 -縄文から江戸時代まで-	図書館 談話室	18名
12月3日（土）	唐古・鍵遺跡 -弥生時代の集落像-	会議室	20名

【考古学実践講座Ⅲ（実験考古学①）】弥生土器をつくる

日 時	内 容	会 場	受 講 者
10月8日（土）	弥生土器とは -弥生土器を観察する-	視聴覚室	16名
11月12日（土）	弥生土器をつくる	陶芸室	17名
12月10日（土）	弥生土器を焼く	唐古・鍵遺跡	17名

【考古学実践講座Ⅲ（実験考古学②）】弥生時代の機を織る

日 時	内 容	会 場	受 講 者
2月11日（土）	紡錘車で糸を紡ぐ	視聴覚室	23名
3月11日（土）	機を織る	会議室	22名



【講座Ⅲ】「弥生土器をつくる」（弥生土器を焼く）



【講座Ⅲ】「弥生時代の機を織る」（機を織る）

(2) チャレンジ子ども誕生探検隊

夏休み・冬休みにあわせて、子供を対象とした体験講座を開催した。

内容	会場	受講者
8月6日（土）ミュージアムクイズに挑戦	視聴覚室	8名
8月7日（日）勾玉づくりに挑戦	陶芸・工作室	47名 (保護者13名を含む)
8月24日（水）拓本づくりに挑戦	会議室	12名
8月25日（木）レプリカづくりに挑戦	陶芸室	12名 (保護者1名を含む)
12月23日（土）ミュージアムカレンダーを作ろう	会議室	25名



勾玉づくり



レプリカづくり



拓本づくり



カレンダーブルブリ

(3) 弥生時代の生活体験イベント

親子を対象に舞錐による火熾しと、赤米の脱穀・炊飯の体験教室を開催した。参加者は39名（保護者9名を含む）。また、同日午後からは、「考古学実践講座Ⅲ（実験考古学②）弥生土器をつくる」で、土器の野焼き体験を行った。

日 時：12月10日（土） 午前10時から12時

会 場：唐古・鍵遺跡の現地



火熾し風景



炊飯風景

(4) 復元楼閣の一般公開

3月19日（日）に、復元楼閣の修復に伴って一般公開をおこなった。参加者は366名。なお、当日は秋季企画展に伴って計画した遺跡ウォーク「唐古・鍵遺跡と周辺の弥生遺跡を歩く」を同時開催し、遺跡ウォークの参加者（145名）も復元楼閣を見学した。



見学風景



見学風景

6. 資料の活用

平成17年度は、以下の資料を下記の機関に貸出し、公開利用した。

(1) 資料の貸出

No.	貸出し先・期間	遺跡	資料名	点数	利用方法
1	桜井市教育委員会 【貸出期間】 平成16年12月3日 ～平成17年4月4日	小阪 里中 第1次	鳥形埴輪(1)	1点	冬季企画展「古代人たちが見た鳥」 【展示期間】 平成16年12月8日 ～平成17年4月3日
2	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館 【貸出期間】 平成17年4月5日 ～平成17年6月16日	唐古・鏡	V様式土器(6)・VI～3様式土器(7)・環濠出土土器(14)・吉備系上器(1)・弧帯文様土器(4)・丸窓付土器(1)・近江系土器(2)・透風管(1)・鉢型(4)・木村君土器(1)・銅鋸形土製品(3)・銅鏡(1)・鉄石斧管玉(1)・銅鏡(2)・鏡(1)・素文鏡(1)	50点	春季特別展「ムラの変貌」 【展示期間】 平成17年4月23日 ～平成17年6月12日
		清水風 第2次	前漢鏡(1)・復元品(1)	2点	
3	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館 【貸出期間】 7月7日～9月6日	唐古・鏡 第98次	銅鋸形土製品(1)・鉢型(1)・赤生土器伊勢湾岸窓(1)・絵画土器(窓・植物)(2)・玉造道具(9)・石庭(1)・石庭丁未成品(1)・石歌(1)・石製防舞車(1)	19点	連報展「大和を掘る23 ～2004年度発掘調査連報展～」 【展示期間】7月16日～8月28日
4	大阪府立弥生文化博物館 【貸出期間】9月7日～12月21日	唐古・鏡	武器形青銅器の土製鉗型外枠(2)・銅鋸の鉗型外枠レプリカ(1)	3点	秋季特別展「北陸の瓦と鉄」 【展示期間】10月4日～12月4日
5	四日市市立博物館 【貸出期間】 12月9日～3月12日	笠鉢山 2号墳	馬形埴輪2号(1) 馬を曳く人物埴輪2号(1)	2点	企画展 【型武東遊・騎馬革束東へ】 【展示期間】12月23日～3月5日

種別による貸出し点数

土器	埴輪	土製品	石器	金屬器	レプリカ・模型	総点数
39	3	11	16	6	2	77

(2) 資料の継続貸出

No.	貸出し先	遺跡	資料名	点数	利用方法
1	香芝市二上山博物館 【貸出期間】 平成17年4月1日 ～平成18年3月31日	唐古・鏡	弥生土器窓(1)・弥生土器窓(1)・ 弥生土器高杯(1)・槍先形石器(1)	4点	常設展示 【展示期間】 平成17年4月1日 ～平成18年3月31日
2	大阪府立弥生文化博物館 【貸出期間】 平成17年4月1日 ～平成18年3月31日	唐古・鏡	土押(2)	2点	常設展示 【展示期間】 平成17年4月1日 ～平成18年3月31日
3	大阪府立弥生文化博物館 【貸出期間】 平成17年9月7日 ～平成18年9月7日	唐古・鏡	縄面土器(4)・長原窓(記号文)(2)・ ミニチュア土器(3)・ト骨(シカ)(1)・ ト骨(イノシシ)(1)・イノシシ下顎骨穿孔(1)・大型燧物柱(1)	13点	常設展示「弥生ブザ」 【展示期間】 平成17年9月7日 ～平成18年9月7日

(3) 資料の掲載

No	貸出し先	遺跡	資料名	点数	掲載書籍
1	朝日新聞社出版本部編集部	唐古・鏡	大型建物跡(1)・巨木柱の痕跡(1)・ 櫻閣の描かれた土器片(1)	3点	網野香彦・森浩・「この国のがたと歴史」朝日選書
2	フェニックス編集部	唐古・鏡	櫻閣の描かれた土器片(1)・復元 櫻閣(1)・唐古・鏡考古学ミュージアムエントランス(1)	3点	月刊『フェニックス』6月号
3	(株)ドキュメンタリージャパン	唐古・鏡	ト骨(鹿肩甲骨)・絵画土器・複頭模型・ 鹿角製陶・まつりの風景模型など	11点	番組取材 「日本鹿骨 - 神鹿伝説 - 」 「鳥栖市誌 第2巻」 原始・古代編
4	鳥栖市教育委員会	唐古・鏡	土製銅鋳鉢型外型	1点	
5	河内長野市立博物館	唐古・鏡	絵画土器片(1)・様々な装身具(1)	2点	「河内長野に現れた謎の族人 ～三日市北跡発掘ミステリー」
6	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館	唐古・鏡	第98次調査遺構写真	1点	速報誌『人和を掘る23 - 2004 年度発掘調査速報展 - 』写真パネル
7	一宮市博物館	唐古・鏡	布巻貝・鏡打貝(1)・紡錘車(1)・ 麻布(1)	3点	展示会解説書
8	株式会社 S I C		安樂寺の阿弥陀如来立像	1点	ツアーパンフレット 「古寺名刹を歩く」
9	大阪府立弥生文化博物館	唐古・鏡	武器形青銅器の焼型外型・焼型外枠 復元品・銅鋳鉢型(大形)	4点	展示図録『北陸の下と鉄』
10	吉野教育団体 株式会社		イラスト「堅穴住居の中のようす」	1点	展示図録『歴史資料集』
11	学生社	唐古・鏡	大型建物跡(1)・櫻閣の描かれた 土器片(1)・絵画土器(1)・石製 農工具(1)・弥生土器(1)	5点	佐原真・W・シュタインハウス 「日本の考古学」
12	財団法人松山市生涯学習振興財團	唐古・鏡	手を挙げる鳥装のシャーマンほか	5点	特別展印刷物『祈り』
13	株式会社 吉川弘文館	唐古・鏡	櫻閣の描かれた絵画土器片	1点	「文字と古代日本5 文字表現 の獲得」
14	読光新聞 東京本社	唐古・鏡	朱落復元のイラスト(1)・復元櫻 閣(1)	2点	特別展『羅文VS弥生』 展示パネル・図録
15	株式会社 雄山閣	阪千東	阪手東遺跡第2次調査 遺跡航空写 真	1点	『季刊 考古学』第92号
16	株式会社 東通企画	唐古・鏡	櫻閣を描いた絵画土器片(1)・弥生土器 (1)・木製品(1)・太刀削葉風景(1)など	3点	『歴史街道』番組制作
17	株式会社 雄山閣	唐古・鏡	砥石・勾玉等(1)・梅鉢鉢容器と ヒスイ勾玉(1)	2点	『季刊 考古学』第94号
18	四日市市立博物館	笠ヶ山	馬と馬曳きの埴輪	1点	全国展『聖武東遊 - 駿馬寧國 東へ - 』展示図録
19	株式会社 ライズ	唐古・鏡	櫻閣を描いた絵画土器片(1)	1点	『日本通史 別巻 歷史絵巻』
20	近畿農政局 人和平野農地 防災事業所	唐古・鏡	櫻閣を描いた絵画土器片(1)・ヒ スイ製勾玉(1)	2点	『ため池紹介ホームページ』
21	サンライズ出版株式会社	唐古・鏡	大型建物のケヤキ柱	1点	『弥生時代の大型建物とその展 開』

22	奈良出版館	唐古・鏡	大型建物跡（第74次）(1)・大型建 物跡（第93次）(1)・絵画土器片(2)・ 銅鋒の土製鉄型(1)・記号の描か れた土器（集合）(1)	6点	『かぎろひの大和路』
			羽子田 着持ち入地輪(1)		
23	株式会社 學習出版社	唐古・鏡	機織の風景模型(1)・弥生の祭祀 再現模型(1)・鳥姿のシャーマン 模型(1)・イノシシと鹿の卜骨(1)・ ヒスイ勾玉(1)・復元櫻闇(1)・ 櫻闇を描いた絵画土器片(1)	7点	『ニューウェイドすかん百科 日 本の歴史』
			羽子田 牛形地輪(1)		
24	財団法人 馬事文化財団	羽子田	牛形地輪(1)	1点	春季特別展 『馬と牛 - ひとつたつとふたつの跡』展示図録
25	株式会社 PHP研究所	唐古・鏡	獨鉢献容器に納められた勾玉(1)・ 勾玉(1)	2点	月刊誌「歴史街道」5月号
26	学術創成研究「弥生農耕の 起源と東アジア」研究代表 西木豊弘	唐古・鏡	唐古・鏡遺跡出土資料の炭素14年代 結果等	一括	文部科学省科学研究費補助金学 術創成研究費「弥生農耕の起源 と東アジア」17年度実績報告書 「弥生時代の実年代」

7. 図書の受領

平成17年度は関係諸機関・個人より287件1,159冊の寄贈図書を受領した。また、図書の購入は35冊である。

分類	報告書	概報	現況資料	年報	館報	図録	パンフレット	紀要	公報
冊数	372(2)	107	10	84(1)	13	67	41	52	3

分類	論文集	たより	発表資料	単行本	雑誌	目録	その他	合計
冊数	6	106	18	20	6	7	44(3)	1,159

*上記冊数には、2部以上の寄贈分88冊を含んでいない。

*()の数字は、CD-ROM 3枚、DVD 2枚、VHS 1本で内数である。

8. 刊行物一覧

平成17年度は以下の刊行物を発行した。

『田原本町文化財調査年報14 2004年度』(3月30日 1,000部)

春季企画展図録『たわらもと2005 発掘速報展』(4月16日 3,000部)

秋季企画展図録『唐古・鍵遺跡と周辺の弥生遺跡』(10月22日 3,000部)

夏季ミニ展示解説シート『田原本の遺跡Vol.1 江戸時代の生活と文化』(7月22日 1,000枚)

冬季ミニ展示解説シート『ミュージアムの収蔵品Vol.1 原始・古代の記号と文字』(1月28日 1,000枚)

常設展解説シート『ミュージアムコレクション №5～8』(8月12日 各1,000枚)

常設展解説シート『ミュージアムコレクション №9～16』(2月21日 各1,000枚)

リーフレット『唐古・鍵遺跡 復元楼閣』(3月17日 3,000枚)



春季企画展図録



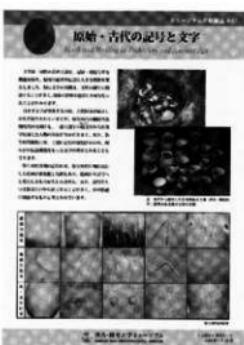
秋季企画展図録



リーフレット「復元楼閣」



夏季ミニ展示解説シート



冬季ミニ展示解説シート



ミュージアムコレクション№7

9. 職場体験学習

文化財保存課では、中学生の職場経験学習として、田原本中学校2年生の女子6名を受け入れた。11月8日から10日までの3日間で、唐古・鍵遺跡の土器洗浄・洗浄後の選別作業、石器や土製品資料の整理・土器の拓本、唐古・鍵考古学ミュージアムの受付等を体験した。

10. ボランティア組織

平成16年4月10日に、ボランティア組織「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」(愛称: 唐古・鍵支援隊)が設立され、下記の活動を行っている。平成17年度の会員は、67名(うち継続42名)である。

(1) 設立の趣意

唐古・鍵遺跡は、わが国を代表する弥生時代の環濠集落で、考古学や歴史研究において大きな役割を果たしてきました。また、長期にわたる発掘調査により、これまで大規模な環濠集落の構造が明らかとなり、様々な出土遺物からは当時の文化を知ることができます。こうした唐古・鍵遺跡は、平成11年に国の史跡に指定され、遺跡公園として整備が進められています。また、平成16年には、唐古・鍵考古学ミュージアムが開館し、これまで出土した豊富な遺物が展示されます。

本会は、唐古・鍵遺跡や弥生時代に理解と愛着を深め、その保存と活用を支援することを通じて、地域社会に貢献することを目的とします。また、活動に当たっては自発的な意志によるボランティア精神を尊重し、自主運営の会とします。

(2) 活動の方針

- I、「唐古・鍵考古学ミュージアム」展示ボランティア・ガイドの運営
- II、「唐古・鍵考古学ミュージアム」、「唐古・鍵支援隊」の広報活動
 - ①「唐古・鍵考古学ミュージアム」・「唐古・鍵支援隊」ホームページの編集・運営支援
 - ②唐古・鍵考古学ミュージアム主催の講演会やイベントなどの支援
 - ③外部団体との交流
- III、「唐古・鍵支援隊」会員を対象にした学習会、講演会などの企画
 - ①講演会(2回以上/年)の企画
 - ②考古学体験教室の企画

(3) 平成17年度の活動内容

【主な活動内容】

支援隊の活動は、4月に開催された総会での承認に基づき、下記の通り行われた。

	内容	会場
4/16（土）	「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」総会	研修室
9/6（火）	「第2回 奈良県観光ボランティアガイド意見交換会」出席	奈良県 市町村会館
10/4（火）	「第3回 奈良県観光ボランティアガイド意見交換会」出席	奈良県 市町村会館
10/29（土）	秋季企画展講演会（『唐古・鍵支援隊』主催）の開催	研修室
2/6（月）	「第4回 奈良県観光ボランティアガイド意見交換会」出席	奈良県 市町村会館

【唐古・鍵考古学ミュージアム主催事業への支援活動】

支援隊では、唐古・鍵考古学ミュージアムで開催された各種講座やイベントについて、講演会の受付や体験学習のアシストを行った。

	内容	会場	アシスト
4/23（日）	春季企画展 報告会のアシスト	研修室	3名
5/7（土）	春季企画展 講演会のアシスト	研修会	3名
8/7（日）	チャレンジ子ども弥生探検隊「勾玉づくりに挑戦」アシスト	工作室	9名
8/24（水）	チャレンジ子ども弥生探検隊「拓本づくりに挑戦」アシスト	会議室	4名
8/25（木）	チャレンジ子ども弥生探検隊「レプリカづくりに挑戦」アシスト	工作室	5名
12/10（水）	赤米の脱穀と炊飯（子ども対象イベント） 土器野焼き（考古学実践講座）のアシスト	唐古・鍵遺跡	20名
12/23（金）	「ミュージアムカレンダーを作ろう」のアシスト	会議室	8名
3/19（日）	遺跡ウォーク「唐古・鍵遺跡と周辺の弥生遺跡を歩く」 特別公開「復元櫻閣に登ろう!!」のアシスト	遺跡現地 復元櫻閣	8名



赤米脱穀のアシスト



赤米炊飯のアシスト

【広報活動】

	内容	メディア
4月	「唐古・鎌支援隊」会員、ボランティア・ガイドの募集	『広報 たわらもと』4月号
	「コラム：展示ボランティア・ガイド」	『道・ゆく・なら』春号
5月	唐古・鎌考古学ミュージアム 展示ボランティア・ガイド紹介	『広報 たわらもと』5月号
12月	赤米炊飯、土器野焼き	『朝日新聞』12月11日付
	赤米炊飯、土器野焼き	『毎日新聞』12月11日付
	赤米炊飯、土器野焼き	『広報 たわらもと』12月号
3月	復元櫻閣の一般公開	『朝日新聞』3月20日付
	復元櫻閣の一般公開	『読売新聞』3月20日付

【運営委員会】

支援隊の運営委員会は、毎月第3土曜日の午前に実施された。運営委員会は18名で構成され、活動報告や今後の運営等について話し合いを行った。

		議題	会場
第1回	4／16（土）	平成17年度総会議案の説明、事務局員・事務局長の承認 ガイド専門部会設置	研修室
第2回	5／21（土）	平成17年度の行事・展示計画、ガイド専門部会について	研修室
第3回	6／18（土）	「考古学放談会」の企画 「ガイド研修会」の内容と今後の進め方について	会議室
第4回	7／16（土）	夏季ミニ展示について、イベントのアシストについて	会議室
第5回	8／20（土）	ガイド運営について、町内史跡巡りについて	会議室
第6回	9／10（土）	ガイド運営について他	会議室
第7回	10／15（土）	「奈良県輿報ボランティア ガイド意見交換会」報告	研修室
第8回	11／19（土）	平成17年度の総括、来期の年間計画について 赤米炊飯・土器野焼きイベントのアシストについて	会議室
第9回	12／17（土）	来期の学校教育への参加について	会議室
第10回	1／21（土）	来期の年間計画・学校教育への参加について 「唐古・鎌支援隊」の会報発行について検討	会議室
第11回	2／18（土）	来期の年間計画・学校教育への参加について 遺跡ウォーク・復元櫻閣特別公開のアシストについて	会議室
第12回	3／18（土）	平成17年度の総括・決算、平成18年度総会について	会議室

【ものづくり実験教室】

田原本教育委員会主催の各種イベントや、考古学実践講座のアシストできるスタッフを養成するため「唐古・鍵支援隊」の会員を対象に実施。当初は、「唐古・鍵支援隊 体験学習会」としてスタートするが、8月13日には「アシスト養成講座」、9月以降には「考古学ものづくり実験教室」と改名する。

また、体験学習用として、火薬し道具一式を23セットと機織用布巻具等33セット、紡錘車25個を製作するとともに、勾玉づくり用に高麗石を隨時分割して用意した。

	内容	会場	参加者
7／2(土)	唐古・鍵支援隊 体験学習会（勾玉づくり他）	工作室	46名
7／5(木)	唐古・鍵支援隊 体験学習会（勾玉づくり他）	工作室	54名
8／13(土)	アシスト養成講座	会議室	18名
9／23(金)	火薬しの予備実験、土器・石器づくり	陶芸室	9名
10／5(水)	石庵丁による船穂の収穫、杵と臼による脱穀	センター周辺農地	9名
10／15(土)	火薬し実験、土器・石器づくり、石庵丁づくり（穿孔）	陶芸室	8名
11／8(火)	藁縄づくり、石庵丁づくり	文化財保存課 倉庫	8名
11／19(土)	火薬し土器によるお米の炊飯	文化財保存課 倉庫	12名
12／15(木)	「ドングリについて」講習会	ボランティア室	8名
12／23(金)	型作りによる土器の試作実験	陶芸室	8名
1／21(土)	土器の接合実験	ボランティア室	7名
1／27(金)	土器の接合実験、土製の勾玉・管玉づくり実験	陶芸室	7名
2／11(土)	酒野晶子氏との懇談	ボランティア室	5名



レプリカづくりの研修



火薬しの研修



III. 唐古・鍵考古学ミュージアム



1. 施設の概要

田原本青垣生涯学習センターは、公民館、弥生の里ホール、唐古・鍵考古学ミュージアム、図書館の4施設からなる複合施設で、建物全体の延べ床面積は13,447.7m²である。唐古・鍵考古学ミュージアムは文化財保存課、その他の施設は生涯学習課、図書館の所管である。

(1) 田原本青垣生涯学習センターの概要

所 在 地	穂城郡田原本町阪手233-1
施 設	弥生の里ホール (801席) 3,756m ²
	図書館 3,447m ²
	公民館 (13室) 1,687m ²
	駐車場 183台
総工事費	約73億3,000万円



センター全景

(2) 唐古・鍵考古学ミュージアムの概要

名 称	唐古・鍵考古学ミュージアム
展示工事費	約215,145千円
展示設計者	東畠建築事務所
展示施工者	(株) 乃村工藝社
面 積	唐古・鍵考古学ミュージアム (常設) 347m ² 2階 特別展示 (会議室を転用) 67m ² 2階 ロビー展示 5 m ² 1階 受付カウンター 7 m ² 給湯室 3.2m ² バックヤード 2 室 7.36m ²
消化設備	フロンガス消化
フロアー	フローリング・強化ガラス (第1室 床下展示)
映 像	大型3面スクリーン映像 (『唐古・鍵ムラの風景』・『弥生の風景』) 3分35秒 大型建物映像 (『大型建物の発掘』・『大型建物再現 (CG)』) 3分 実験考古学映像 (『弥生土器をつくる』3分45秒・『木器をつくる』4分45秒・『銅鏡をつくる』7分)
グラフィック	118枚 (第1室53枚、第2室58枚、第3室7枚)

常設展示室 ケース

展示室	ケース	数量	寸法(単位mm)		
			W	D	H
第1室	壁面展示大ケース(エアータイプケース)	2	5825	895	1755
	壁面展示大ケース付帯ケース(環境・絵画)	2	1500	250	695
	壁面展示ケース(大型建物柱・エアータイプケース)	1	800	890	2235
	壁面展示小ケース(学史)	1	1200	450	720
	独立中央ケース(絵画土器・人物模型)	1	680	2680	1250
	模型展示台(引出ケース4付き)	1	2700	1813	700
	ガラス(1213×1180/T12×1、T9×2の3枚構造)	14	-	2500	-
	ガラス(1213×580/T12×1、T9×2の3枚構造)	4	-	2500	-
床下展示	壁面展示ケース(絵画土器・馬鹿鏡)	2	600	283	600
第2室	壁面展示大ケース(エアータイプケース)	4	3300	-	2080
	壁面展示大ケース(エアータイプケース)	3	3250	930	2080
	独立中央ケース(模型台付・引出ケース8付き)	1	2570	2570	-
	独立小ケース(映像モニター付)	3	1200	420	630
第3室	壁面展示大ケース(通史展示)	1	1350	400	700
	壁面展示ケース(牛埴輪・免震装置付き)	1	1480	1090	1500
	壁面展示ケース(家形埴輪)	2	1010	910	2080
	壁面展示ケース(馬形埴輪1)	1	810	930	2090
	壁面展示ケース(馬形埴輪2)	1	830	930	2090
	壁面展示ケース(円筒埴輪・木製品)	1	3040	930	2090
	壁面小ケース(振鏡)	3	430	450	840
	壁面小ケース(人物埴輪)	1	700	460	2100
ロビー	スポット展示ケース(水差杉上器・馬形埴輪・和鏡)	3	460	440	475
	ロビー展示ケース①(阪手東)	1	1210	615	2115
	ロビー展示ケース②(兄弟上器)	1	1210	575	2060
	ロビー展示ケース③(蓋形埴輪)	1	1200	1160	2400
	ロビー展示ケース④(家形埴輪)	1	1170	790	2077
	ロビー展示ケース⑤(絵画土器の風景)	1	1770	-	470

特別展・企画展用備品

品名	数量	寸法(単位mm)			品名	数量	寸法		
		W	D	H			W	D	H
ウォールケース(コクヨ製)	2	2400	1000	2400	四面ガラスケース(中1)	1	1200	850	1450
平のぞきケース(コクヨ製)	3	1000	1800	900	四面ガラスケース(中2)	1	730	930	1500
斜のぞきケース(コクヨ製)	4	1500	700	700	のぞきケース(大)	1	1207	1135	860
四面ガラスケース(コクヨ製)	2	900	900	2100	のぞきケース(中)	1	1337	637	860
演示台(演出展示用)	2	900	900	450	のぞきケース(小)	1	635	635	865
カウンター用机	1	1600	700	700					

2. 開館に至る経緯と名称

(1) 開館に至る経緯と経過

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 平成13年3月 | 基本設計完了 |
| 平成13年7月 | 展示室の打合せ開始 |
| 平成14年3月 | 実施設計完了 |
| 平成14年9月 | 建築工事着工 |
| 平成15年5月 | 臨時職員（学芸）採用 |
| 平成15年6月 | 文化財資料展示工事着工 |
| 平成16年9月30日 | 竣工 |
| 平成16年11月11日 | センター落成式 |
| 平成16年11月16日～21日 | 町民内覧会（無料開放 1,397名） |
| 平成16年11月24日 | 開館 |



田原本青垣生涯学习センター(写真中央がミュージアム)

(2) ミュージアムの名称

唐古・鍵遺跡は、日本を代表する弥生遺跡として知名度が高く、考古学や古代史関係の書籍や教科書には必ずその名前が登場する。本ミュージアムは、唐古・鍵遺跡の出土品を中心に構成され、唐古・鍵遺跡の全体像や、弥生文化の具体的な内容を立体的に展示する。

また、単なる考古資料の展示にとどまらず、「考古学」という学問を通して、弥生の情報発信基地になることを目指し、「唐古・鍵考古学ミュージアム」という名称とする。

(3) 展示の方針

1. 展示品は基本的に田原本町の所有品で構成し、一部を他機関・個人（3件）から借用する。
2. 実物資料の展示を基本とし、不足分のみをレプリカとする。
3. デリケートな資料が多いためケース展示とし、重要文化財も展示可能なケース仕様とする。
ただし、展示品と見学者の距離は近くし、一点一点の实物資料をじっくり観察できるようにする。
4. 質や量を実感できるように实物資料を多く展示し、解説文やキャップションは最小限とする。また、展示品の造形美を鑑賞していただくことを主眼とし、説明文は少なくする。
5. わかりにくい部分については、「模型」や「映像資料」によって見学者の理解を助ける。
6. 展示の解説には、ボランティア・ガイドを登用する。
7. 唐古・鍵遺跡の展示は、時代的な流れよりムラの風景を再現する。また、弥生の環境や生活の全般がわかる展示を試みる。
8. 唐古・鍵遺跡だけでなく、田原本町の通史（重要文化財「埴輪牛」）も展示する。

3. 利用案内

所在地：〒636-0247

奈良県磯城郡田原本町阪手233-1

田原本青垣生涯学習センター内

T E L : 0744-34-7100

F A X : 0744-32-8770

U R L : <http://www.karako-kagi-arch-museum.jp/>

開館時間：午前9時から午後5時まで

(入館は午後4時30分まで)

休館日：毎週月曜日

12月28日～1月4日

観覧料：

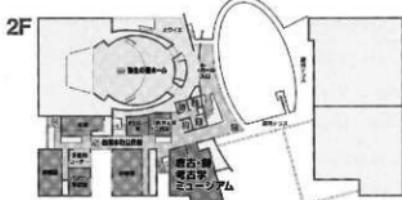
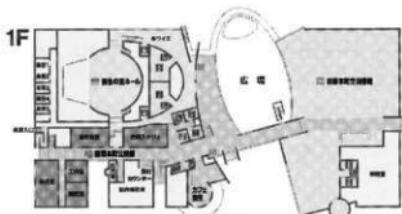
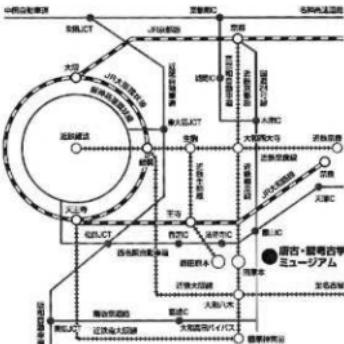
	常設展		特別展
	個人	団体	
大人	200	150	町長がその都度定める額
高校生・大学生	100	50	

*15歳以下は無料 団体は20名以上

交 通：近鉄田原本駅下車 徒歩20分

西名阪自動車道「郡山」インターから

約30分



センター平面図

4. 常設展示

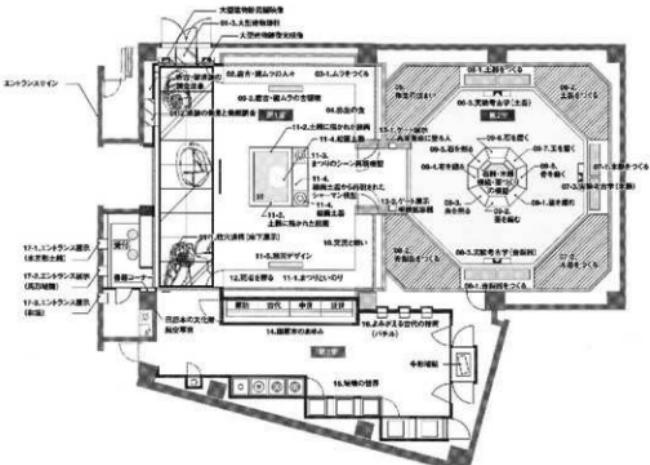
(1) 展示室の概要

常設展は3つの展示室から構成され、展示総面積は347m²、展示品の総点数は948点である。このうち複製品は11点、模型は7点で、実物の展示が多いことが本ミュージアムの特徴である。

展示室は3つの部屋で構成され、それぞれの内容は、第1室・第2室が唐古・鍵遺跡をテーマとする「唐古・鍵の弥生世界」、第3室が田原本町の通史を考古学的に概観する「田原本のあゆみ」となっている。また、展示室のエントランスや田原本青垣生涯学習センター内には、展示室の他に8ヶ所の展示ケース（ロビー展示）を設置し、弥生土器や形象埴輪などを展示する。



エントランス



(2) 唐古・鍵の弥生世界

第1・2室の「唐古・鍵の弥生世界」は、唐古・鍵遺跡の環濠集落をイメージして設計されている。第1室は環濠外側の世界を、第2室は環濠内側のムラの生活や「もの作り」をテーマとする。

◆第1室◆

環濠内外の環境や、周辺地域との交流、精神世界をテーマとし、「遺跡の発見と発掘調査」・「唐古・鍵ムラの人々」・「ムラをつくる」・「弥生の食」・「交流と戦い」・「まつりといのり」・「死者を葬る」の7つのコーナーで構成される。

また、エントランスの床下には、第74次調査で検出された大型建物跡の発掘現場を再現し、出土した大型建物の柱や、大型建物復元の映像資料を展示する。



第1室 全景



「まつりといのり」コーナー



「まつりといのり」コーナー

◆第2室◆

唐古・鍊ムラ内側での生活や「もの作り」(手工業生産)をテーマとし、「弥生の住まい」・「土器をつくる」・「木器をつくる」・「青銅器をつくる」・「籠を編む」・「藁を編む」・「糸を撚る」・「布を織る」・「石を割る」・「石を磨く」・「玉を磨く」・「骨を磨く」の13コーナーで構成される。また、中央展示ケースには、8ヶ所の引き出し展示(収蔵展示)を配置し、「さまざまな打製石器」・「リサイクルされた石器」・「石庵丁の製作工程」・「さまざまな石庵丁」・「骨角器の製作工程」・「さまざまな紡錘車」を展示し、多彩な「もの作り」の実態を示す。

なお、第2室では壁面を大型3面スクリーンとして利用し映像資料を放映する。映像の内容は二部で構成され、第1部はスクリーンセイバーを発展させた技術を用い、弥生時代の環境をイメージした映像に、絵画土器の線画を挿入して構成する。第2部は唐古・鍊ムラの最盛期のイメージを導入部とし、ムラ内部での「もの作り」の様子をイラストによって再現する。また、各展示コーナーには小型のビデオを設置し、土器・木器・青銅器の製作工程を映像で紹介するとともに、製作実験で使用した道具類や、完成した復元品をビデオ下のケースに展示する。



第2室 全景



「土器をつくる」コーナー

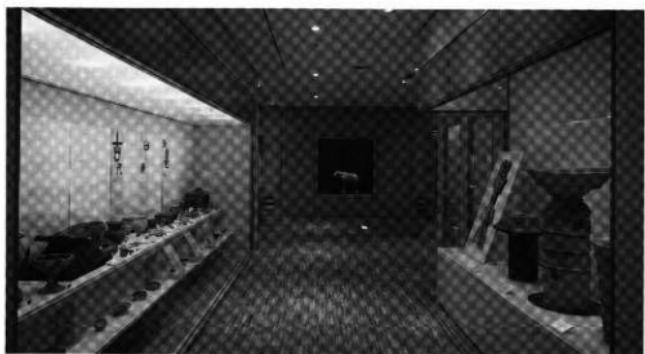


「石を磨く」引出展示

(3) 田原本のあゆみ

田原本町の通史をテーマとし、「田原本のあゆみ」・「埴輪の世界」・「よみがえる古代の技術」の3コーナーで構成される。

「埴輪の世界」に展示する牛形埴輪は、重要文化財に指定されており、今回、ミュージアムの開館に伴って奈良国立博物館から移管した。また、「よみがえる古代の技術」では、人間国宝（重要無形文化財保持者）に認定された故・吉田文之氏のバチル作品を展示する。



第3室 全景

(4) ロビー展示

展示室エントランスに3ヶ所、田原本青垣生涯学習センター内に5ヶ所の展示ケース（ロビー展示）を設置した。



ロビー展示 1



ロビー展示 2

5. 企画展・ミニ展示

平成17年度は、春と秋に企画展、夏と冬にミニ展示を下記のとおり開催した。

(1) 春季企画展「たわらもと2005 発掘速報展」

内 容：平成16年度に実施した町内での発掘調査の成果を速報展示した。

期 間：4月16日（土）～5月22日（日）

会 場：特別展示室

（田原本青垣生涯学習センター2F 会議室）

観覧料：一般 200円(100) 高校・大学生100円(50)

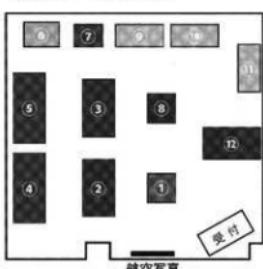
※（ ）は20名以上の団体料金

入館者：1,388人（企画展のみ）



春季企画展チラシ

【展示ケースの配置】



- ①石製鋳型・銅鋸形土製品
(唐古・鍵)
- ②石器・糸巻きほか
(唐古・鍵)
- ③石器・絵画土器ほか
(唐古・鍵)
- ④井戸から出土した土器
(唐古・鍵)
- ⑤撒入土器・特殊土器
(唐古・鍵)
- ⑥弥生前期土器
(保津・宮古)
- ⑦古式土師器
(黒田)
- ⑧家形埴輪
(篠鈴山1号墳)
- ⑨上馬・小壺・木製品
(篠鈴山1号墳)
- ⑩瓦器塊・白磁他
(日光寺推定地・阪手仁王前)
- ⑪瓦器塊・墨書き器他
(十六面・薬王寺、保津・宮古)
- ⑫焰烙・泥面子
(平野氏陣屋跡)



展示風景

【主な展示品】(展示総数210点)

(I) 唐古・鍵遺跡

大型建物柱出土土器 (第93次)

銅鐸の石製鋳型 (第93次)

銅鐸形土製品 (第93次)

鍛入土器 (第98次)

絵画土器 (第98次)

木製容器 (第94次) 他



ケース④井戸から出土した土器

(II) 保津・宮古遺跡 (第31次調査)

弥生時代前期の土器

紅が付着した白磁皿・瓦器塊



ケース⑤軒平瓦・瓦器塊・白磁碗他

(V) 日光寺推定地 (第4次調査)

白磁碗・瓦器塊・土師器小皿他



ケース⑥焼壙・泥面子

(VI) 阪手仁王前遺跡 (第1次調査)

土師器小皿・瓦器皿

軒丸瓦

(VII) 十六面・薬王寺遺跡 (第21次調査)

墨書き土器

瓦器塊・土師器小皿

(VIII) 寺内町遺跡 (第8次調査)

焙烙・焙烙の型・泥面子